

インド国サンジャイ・ガンジー
医科学研究所プロジェクト
実施協議調査団報告書

1990年2月

国際協力事業団
医療協力部

JICA LIBRARY



1083750181

21367

インド国サンジャイ・ガンジー
医科学研究所プロジェクト
実施協議調査団報告書

1990年 2月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団

21367

序 文

インド政府は卒後研修機関として、ウッタル・プラデッシュ州の州都ラックナウに、サンjay・ガンジー医科学研究所を創設すると共に、わが国に対し無償資金協力にする機材の供与を要請越した。

わが国は、1986年から約33億円の医療機材を供与したが、インド政府はわが国に供与機材の有効利用などのために1988年7月プロジェクト方式技術協力を要請越した。

これを受けてわが国は同年9月に事前調査団を、1989年9月には長期調査員をそれぞれ派遣し、協力の可能性につき調査を行った。

1990年2月にわが国は、上記諸調査の結果を踏まえ、具体的な協力実施体制、分野および方法等についてインド側と協議し討議議事録の締結を目的として、本実施協議調査団を派遣した。

本報告書は、上記調査団等が実施した調査および協議の内容と結果等を取りまとめたものである。

ここに本件調査にあたり、ご協力いただいた関係各位に深甚なる謝意を表する次第である。

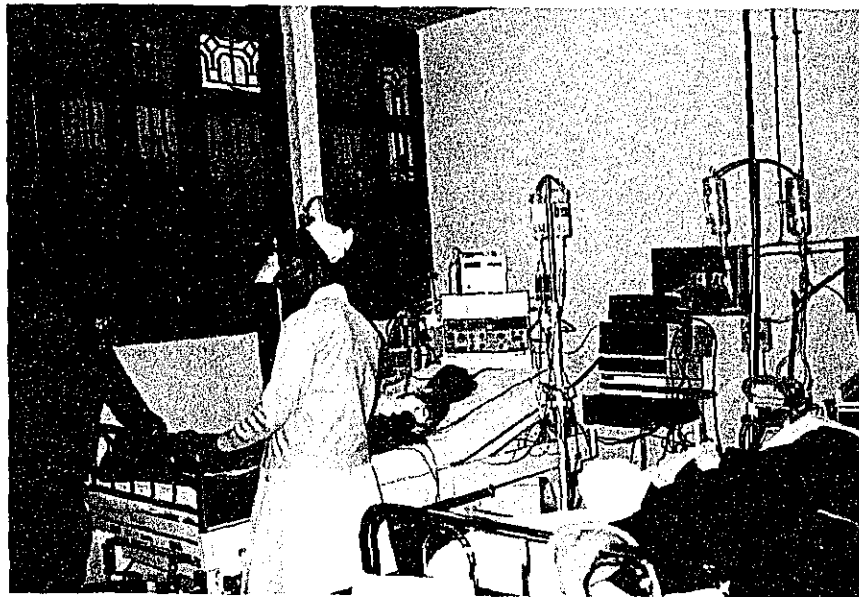
平成2年2月

国際協力事業団

理事 西野 世界



討議議事録（R/D）の署名（1990年2月15日 於 保健省）
—右から加藤団長、Ahojja 保健省次官補、
1人おいてSethi サンジャイ・ガンジー医科学研究所長、
Swarup ウッターール・プラデッシュ州保健省局長—



サンジャイ・ガンジー医科学研究所

目 次

I 実施協議調査団報告書

1. 実施協議調査団派遣概要	1
(1) 調査団派遣の経緯と目的	1
(2) 調査団構成	2
(3) 行 程	2
2. 調査結果	3
3. 実施協議調査の経過	5
4. 各専門分野の活動状況等	9
5. 別添資料	15
(1) 関連写真	15
(2) 主要面談者リスト	18
(3) Record of Discussions (討議議事録)	19
(4) Tentative Schedule of Implementation (暫定実施計画)	29
(5) Minutes of Discussion	32
(6) 新聞報道	35
(7) 研究所スタッフの配置状況	36

II 長期調査員報告書

I 実施協議調査団報告書

1. 実施協議調査団派遣概要

(1) 調査団派遣の経緯と目的

インド国における保健衛生環境は、医療供給の量的および質的不足、特に熟練した医師、看護婦等の不足により深刻な状況となっており、インド政府はこれに対し、医療水準の向上をはかる卒後研修施設の設置に力を入れることとした。

サンジャイ・ガンジー医科学研究所 (Sanjai Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences:SGPGI) は、インド国最大の州であるウッタル・プラデシュ(UP)州の州都ラクナウに計画され、インド政府の全面的資金援助を受け、州立の第3次医療を行なえる卒後研修機関として建設された。

しかしながら、大半の医療機材はインドで生産されていないため、わが国に対し無償資金協力による医療機材の供与を要請越した。これを受けて、昭和61年度および昭和62年度の2年間にわたり、計33.2億円の医療機材が供与された。

かかる経緯のもとに、インド政府は1986(昭和61)年2月からSGPGIに対する技術協力を日本側に非公式に打診してきており、1988(昭和63)年1月にSGPGI所長が訪日した際に、わが方は日本側関係者(外務省、文部省、名古屋大学およびJICA)との協議を通し、インド側の意向を聴取した。

その後、同年5月インド政府はわが国に対し、下記の分野に対するプロジェクト方式技術協力を正式要請越した。

ア. 神経科

イ. 循環器科

ウ. 消化器科

エ. 泌尿器科

オ. 内分泌科

カ. 遺伝・免疫科

キ. その他関連分野

しかしながら、要請内容は分野が広く、さらに各分野ごとの到達目標が明確でないこと、また研修員受入れ人数などに日本側技術協力制度に馴染まない点があったため、わが国は、右技術協力要請に対し事前調査団1988(昭和63)年9月におよび長期調査員1989(平成元)年9月をそれぞれ派遣し、インド側の要請背景・内容と実施体制等に係る調査と確認を行なった。今回の調査団は上記調査結果を踏まえ、具体的な協力実施体制、分野および方法等についてインド側と協議し、討議議事録(Record of Discussions-R/D)の締結を目的として派遣されたものである。

(2) 調査団構成

団長	総括	加藤 延夫	名古屋大学医学部教授
団員	内科学	林 博史	名古屋大学医学部講師
団員	医学教育	加藤 敏雄	文部省高等教育局医学教育課係長
団員	協力計画	古賀 達郎	外務省経済協力局技術協力課事務官
団員	企画調整	中川 和夫	国際協力事業団医療協力部医療協力課課長代理

(3) 行程

年 月 日 行 程

1990年(平成2年)

2月 5日(月) 東京発(1630) JL491
6日(火) デリー着(0050)
日本大使館・JICA事務所表敬および打合せ
インド政府大蔵省・保健省表敬および打合せ
7日(水) デリー発(1040) ラックナウ着(1130) IC809
SGPGIと協議、関係施設視察
8日(木) SGPGIとの協議、関係施設視察
9日(金) SGPGIとの協議、関係施設視察、UP州保健省との協議
10日(土) 団内打合せ、資料整理
11日(日) ラックナウ発(1220) デリー着(1310) IC810
12日(月) 日本大使館・JICA事務所と打合せ
13日(火) 大蔵省・保健省との協議
14日(水) 保健省と協議
15日(木) 討議議事録(R/D)署名 日本大使館・JICA事務所に報告
16日(金) デリー発(0320) JL494
東京着(1650)

2. 調査結果

協力実施中のプロジェクト方式による対インド技術協力は皆無であったため、インド側関係当局および日本大使館・JICA事務所は、本件プロジェクトに対し大きな期待をいただいていた。

一連の調査および協議を通じ、わが方提示のR/D(案)を若干修正することで合意に達し署名を行った。(詳細については本報告書「3.実施協議調査の経過」を参照されたい)。

(1) 研究所スタッフの配置

教官(学長を除く)の採用数は67名で、1989年9月の長期調査員の調査時より4名増加していた(別表参照)。教官予定数は250名とされているので、充足率は26.8%である。教官以外のスタッフについては、看護婦115(予定数1,200名、充足率9.6%)、薬剤師5名(予定数25名、充足率20%)、臨床検査技師66名(予定数400名、充足率16.5%)、放射線技師5名(予定数75名、充足率6.7%)は、1989年9月とほとんど変わらないとのことであった。教官の採用状況は遅々としているが、少しずつ進展している。この遅延の理由の1つとして、優秀な人材を全インドから集めたいとの方針を堅持しているためと証明されている。上記のスタッフ充足率を、1989年9月の事前調査の際のSGPGI側から提示された予定採用数から計算したが、率直な印象として、この予定数は実状に則さない過剰な数字のように見受けられるので、充足率をこの数値を基礎として計算することの意義は疑わしい。薬剤師が少数なのは、病院に固有の薬剤部を持たず外来患者には処方箋のみ発行し、実際に投薬するのは入院患者に対してだけである。

(2) SGPGI施設の整備状況

10階建の病棟の建築は終了したが、内部の整備が完了したのは3階以下で、4階以上の整備が進行中であった。3階までは既に入院患者の受け入れが行われている。手術室の整備も完了していないので、既に1988年1月から業務を開始したプライマリーヘルスセンター(通称30床病院)の手術室にて手術が行われている。

10階建の病棟周囲の1~2階の低層建築は、外来棟、放射線診断、放射線治療、核医学、生理機能、病理、微生物、中央材料部、輸血部等で占められるが、病理、微生物検査室以外は整備されていた。

(3) 宿泊施設の整備

SGPGIには5種類の宿泊施設がある。

①短期滞在者用のゲストハウス、②ゲストハウスアネクス(患者家族用宿泊、PRA)、③トランジット宿舎、④助教授・講師用宿舎、⑤教授用宿舎、の5種類である。①はビジネスホテル式個室、②と③はアパート式集合住宅、④と⑤は1戸建てである。④と⑤は増築が進行中で、他は完成済みであった。

(4) 福利厚生施設の整備状況

SGPGI キャンパス内には、幼稚園、小学校、銀行、郵便局、マーケット等が設置されている。幼稚園、小学校は SGPGI 職員の子弟のみの専用ではなく、SGPGI 附近の地域からも子弟を受け入れているとのことである。銀行、郵便局、マーケットも既に開業していたが、未だ緒についたばかりという印象を受けた。特に、生鮮食料品市場についてはこれから開設の準備を始めるとのことであった。

(5) 動物実験施設、図書館、講堂等の整備計画

現在設置されている動物舎、図書室は仮のもので、規模も比較的小さい。近代的な設備をもつ動物実験施設、図書館の設計が進行中である。また、新しい視聴覚教育機能を備えた講堂の計画もある。

3. 実施協議調査の経過

1990(平成2)年

2月6日(火) デリー着

○日本大使館・JICA事務所表敬および打合せ(旭参事官、西郷書記官、倉林所長)

○R/D協議の対処方針実施計画等についての打合せを行った。

○大蔵省経済局 Mr. S. Joshi, Deputy Secretaryを表敬

調査の目的およびR/D等についての説明と打合せを行った。

席上、Mr. S. Joshiは、関係省庁が大蔵省に説明と了解を得ることで、

R/D等のこの種文書に、同省は署名しないことが最近決定された旨述べた。

これに基づき、R/Dの署名についてインド側の署名者は、保健省の

Joint Secretary、UP州保健省のJoint SecretaryおよびSGPGI所長の3名となった。

暫定実施計画(TSI)については加藤団長とSGPGI所長との間で署名されることとなった。

○保健省Mr. R. K. Ahooja, Joint Secretaryを表敬訪問、R/D等の説明を行った。

7日(水) デリー発(11:20)→ラックナウ着(12:20) IC809

SGPGI訪問、日程等打合せ、施設の一部を視察

8日(木) ○UP州政府Mr. R. K. Bhargava, Chief Secretaryを表敬訪問(Chief

Secretaryは州政府の各省庁を統括する長官。同ポストはSGPGIの運営審議会の委員長でもある)

○SGPGIとR/DにおよびTSIの協議

調査団よりR/D等の日本側案を提示し、説明を行った。

○各科の教授からの活動状況と将来計画についての説明を受け意見交換を行った。(内容については「4. 各分野の活動状況等」を参照されたい)

(1) 遺伝・免疫科 Dr. S. S. Agarwal

(2) 神経外科 Dr. D. K. Chhabra

(3) 消化器科 Dr. S. R. Naik

(4) 核医学科 Dr. B. K. Das

9日(金) ○前日に引き続き各科の教授との意見交換

- (1) 泌尿器科 Dr. M. Bhandari
- (2) 循環器科 Dr. P. K. Ghosh
- (3) 輸血科 Dr. J. G. Jolly
- (4) 放射線診断科 Dr. R. B. Gujral

(8日の午後および9日の午前中、中川団員はSGPGIのDr. Sethi (Director)、Dr. Agarwal (Dean)とR/D、TSIおよび今後の諸手続について打合せを行った。)

○ SGPGI との全体会議

わが方提示のR/DおよびTSIに関し、SGPGI側は以下の諸点を要望した。

- (1) R/DのTHE ATTACHED DOCUMENTの「IV. TRAINING OF INDIAN PERSONNEL IN JAPAN」の1にも「II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS」の2に記載されている日本人専門家に対しインド側が与える「特権、免除および便宜」を与えるべきである。

一これに対し、わが方からは次の通り説明した。

本件はインド政府がコロボ計画に基づきインドに派遣される専門家に対して特権等を与えることを承認したものであり、インド人に対するものではないこと、また、本邦で受入れるインド人研修員に対しては、本邦滞在中の宿泊費、生活費および研修経費等の負担、宿舍の手配等はすべて日本側が行うこととなっており、かかる問題は生じない。

本件については別添「ミニッツ」で3)のa)の通り表現とした。

- (2) R/D「VIII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS」日本人専門家(特に医師)が技術指導の必要上直接患者を診療、手術等を行う場合も想定されるため、それに対するインド側の何らかの公的措置(仮医師免許の授与等)の必要性が討議された。

SGPGI側は上記R/D VIIIの項に何らかの文言の挿入を提案したが、彼ら自身インド側の公的機関がどのような措置を取れるか承知しておらず、非常に重要な問題であるのでR/Dに記載せず、「ミニッツ」3)のb)の通りの表現に止めた。

- (3) R/D「X. TERM OF COOPERATION」

協力開始日については、インド側からの各種要請書の取付けには数カ月を要する見込みであること、また、わが方の国内準備のためにも1990年8月1日から5カ年間とすることで双方合意した。

(4) R/D ANNEX 「II JAPANESE EXPERTS」の分野に関し、SGPGI側の要望により組み替え等を行った(わが方案と大略変更ない)。これに対応すべく同ANNEXのIIおよびIVの分野についてもANNEX IIと同様とした。

(3) TSIに関し、わが方作成の案に対し、SGPGI側と種々討議した結果、以下の通りとした。

ア. R/D ANNEXのII~IVの協力項目の組み替えに伴いTSIの項目もそれに基づき修正した。

イ. (ア) Team LeaderおよびCoordinator(それぞれ長期)を1990年8月から派遣する。

(イ) その他短期専門家の派遣計画(線引き)は、1990/91会計年度内までとし、それ以降については、1990年後半に派遣予定の計画打合せ調査団とSGPGIの協議に基づき決定する。

(ウ) 上記短期専門家の派遣は、Team LeaderおよびCoordinatorの着任後、1990年9月からとした。

(エ) 実験動物に対する協力要望が強く出されたためTSIの1.の(6)としてExperimental animal facilitiesを追加した。

(オ) 1990/91年度のカウンターパート受入れは5名各1カ年間とした。

ウ. その他の事項

以下の諸点についてSGPGIと協議し、ミニッツに取りまとめることとした。

(ア) 供与機材にはスペアパーツが含まれる。

(イ) 1990/91年度の供与機材リスト作成

(ウ) 日本人専門家のための執務室および車輛

(エ) ローカルコスト負担

(オ) 日本人専門家に対する宿舍提供

(カ) インド側関係者の訪日

10日(土) 団内打合せ、資料整理

11日(日) ラックナウ発(12:20)→デリー着(13:10) IC810

12日(月) 日本大使館およびJICA事務所とR/D等の締結について打合せを行った。

13日(火) 保健省Mr. R. K. Ahooja (Joint Secretary)とR/D等の締結に係る打合せを行った。

14日(水) 大蔵省・保健省との打合せ

両者はR/D ANNEX VI「THE COORDINATING COMMITTEE」のインド側のメンバーに関し、わが方案に対し、以下の通りの修正を要望越したため、検討の結果、それに応じることとした。

(1) Chairman : Joint Secretary of Department of Economic Affairs, Ministry of Finance → Joint Secretary (International Health), Ministry of Health and Family Welfare, Government of India

(2) Members : Indian Side :

a. Joint Secretary of International, Health, Department of Health, Ministry of Health → Deputy Secretary (Medical), Ministry of Health and Family Welfare, Government of India

b. Deputy Secretary (Investment), Department of Economic Affairs, Ministry of Finance, Government of India (追加)

15日(木) 保健省においてR/D、TSIおよびミニッツの署名、交換

(野田大使、倉林JICA事務所長他同席)

日本大使館、JICA事務所に報告

16日(金) デリー発(03:20)→東京着(16:50) JL494

4. 各専門分野の活動状況等

(1) Neurology (神経内科)

ア. 専門家の派遣時期：いつでもよいが vacation period (5～7月)、national conference の時期 (12～1月) は避けて欲しい。

イ. 関心領域

(ア) 急性疾患患者 (GB syndrome, myasthenia gravis, choke, CNS infection, etc) の治療体制の組織化

(イ) てんかん学

Intensive EEG monitoring, 術前の epileptic foci 同定, リハビリテーションを含めた total care

(ウ) 神経生理学

Cognitive evoked potential

(2) Neurosurgery (脳神経外科)

ア. MRI が 1990年10月稼動

イ. 主な疾患：感染症 (結核腫)、寄生虫、先天性異常 (水に鉛含量多い)

ウ. 関心領域

(ア) Microneurosurgery

(イ) Interstitial hyperthermia in glioma

(ウ) General & functional neurosurgery

(エ) Surgery for functional pituitary adenomas, Cushing disease

(オ) CSF dynamics & telemetry

(カ) Neuroanesthesia

(キ) Paediatric neurosurgery

(ク) Surgery for base of skull - Facio-maxillary reconstruction

(ケ) Surgery for epilepsy

(コ) Neuro-otology

以上の項目については、既に名大脳外科と合意がほぼなされている。

その他、microvascular neurosurgery, detachable balloons for occlusion of giant AVM/aneurysm, interventricular neuro-radiology の領域について、信州大学、国立循環器センターとのタイアップも希望。

(3) Cardiology (循環器科)

ア. 協力要望

(ア) 心エコー・ドプラー法

(イ) Interventional cardiology (Cath. lab. は2室あり) e.g. PTCA, valvuloplasty

(ウ) Electrophysiology - Pacemaker clinic, endocardial mapping

(エ) Nuclear cardiology

(オ) Animal experiment

(カ) Epidemiology

(4) Cardiac Surgery (心臓外科)

ア. 1989年8月以後: total operation 130 cases

open heart surgery 62 cases

イ. 主な手術例

(ア) Thoracic & vascular Cases

(イ) Neonatal surgery

(ウ) Ischemic heart disease

(エ) Arrhythmias

(5) Gastroenterology (消化器科)

ア. 専門家派遣時期: 1991年4月~1992年3月

1990年11月までにMRI設置されるのでこの時期を希望

イ. 協力要請の領域

(ア) Gastric macromolecular glycoproteins in non-ulcer dyspepsia

(イ) Role of prostaglandins in tissue damage in non-ulcer dyspepsia

(ウ) Gastric metaplasia in non-ulcer dyspepsia

(エ) 24 hour ambulatory pH in esophagus and stomach

(オ) Percutaneous choledoscopy management of high biliary stricture

(カ) Role of endoscopic ultrasound examination in pancreatic biliary pathology
& in assessing tumour depth

(キ) Bile acid analysis of the tumours of biliary tract

(ク) Interleukin receptors in HBV infection

(6) Surgical Gastroenterology (消化器外科)

協力要請

ア. Cancer esophagus

Surgical techniques

イ. Cancer stomach

Reconstructive surgery

ウ. Liver resections

エ. Surgery for biliary atresia

オ. Sigiura procedure for portal hypertension

カ. Tuberculosis stricture of bowel, immunological aspects

キ. Reconstructive techniques of colorectal surgery

(7) Endocrine Surgery (内分泌外科)

ア. 専門家派遣時期: 1991年1~3月及び1992年1~3月

イ. 特に intraoperative ultrasound & pituitary microsurgery における、教育・研究・自己研修について、superspeciality の確立に協力して欲しい。

(8) Urology (Renal Science) (泌尿器科)

関心領域

ア. Neurogenic urology : Urodynamics (Urovideosystemあり)

イ. Inflammatory stricture of urethra

ウ. Urinary tract stone

インドに stone-rich belt あり、外来で 25 - 30 stones/wk

エ. Kidney transplant

Cadava transplant の第1例目施行

オ. Journal collaboration

各種ジャーナルの情報交換

カ. Dialysis

キ. Glomerulonephritis

ク. 男子不妊症、性機能障害

(9) Immunology & Genetics (免疫・遺伝科)

関心領域

ア. Bone marrow transplantation including

a) HLA typing

b) Infectious disease in compromised host

c) Immunobiology of GVHD

イ. Foetal medicine including

a) Antenatal diagnosis using DNA probes

b) Cytogenetis

ウ. Gene mapping - DNA banking

- Lymphoblastoid cellines bank

エ. Genetic regulation of immune response

(10) Transfusion Medicine (輸血医学)

ア. 専門家派遣時期：1991年3月～4月

イ. 関心領域

(ア) Bone marrow transpantation

(イ) Preparation of blood components especially platelets & cryoprecipitate

(ウ) Plasmapheresis

(エ) Qualities assurance programme & donor screening

*血液保存のための設備・器具を要す

(11) Radio therapy (放射線治療)

ア. 専門家派遣時期：1991年4月～1992年3月

イ. 協力分野

(ア) High dose rate brachytherapy

(イ) Hyperthermia

(ウ) Bone marrow transplantation

(エ) リニアック、コバルト装置、コンピュータによる治療計画装置等を用いた治療技術
—特に組織内照射、電子線治療など。

(12) Radiodiagnosis (放射線診断)

関心領域

ア. 血管系—癌の血管塞栓術、腎血管拡張術

イ. 消化管系—Double contrast technique

ウ. Neuroradiology

エ. DSA

オ. MRIの1990年12月稼動に伴って、この領域も協力望む

カ. Dynamic CT

キ. Computed radiography

(13) Nuclear Medicine (核医学)

ア. 専門家派遣時期：1990年10～12月、1991年11～1992年2月

イ. 協力要望領域

(ア) Training of faculty in microdosimetry & internal dosimetry specially in patients undergoing radioimmunodetection & radioimmunotherapy.

(イ) Supply of monoclonal antibodies and some radiopharmaceuticals specially for the SPECT brain studies.

(ウ) Training of staff for PET facility. This will include training of medical physicists for operating cyclotron and radiopharmacy for preparation of appropriate radiopharmaceutic for the PET.

その他、脳血管センター(秋田)、保健衛生大からも、SPECT, PET等を用いた脳代謝に関する研究で協力願いたい。

その他の領域

(ア) Metabolic studies of brain & other organs especially in tropical diseases & under local conditions.

(イ) Radioimmunodetection (RID) & Radioimmunotherapy (RIT) using monoclonal antibodies.

(ウ) microdosimetry / Internal dosimetry specially in patients undergoing radioimmunodetection & radioimmunotherapy.

(エ) Metabolic studies of various tumours and change of their activities in response to various therapeutic modalities.

(オ) Evaluation of grafts & organ transplant with special methods, developing radioisotope techniques of early detection of rejection or impairment of function.

(14) 専門家派遣についての問題点

各分野についてエキスパートによる技術協力を希望する項目が臨床面及び研究面ではほぼ明らかにされてきた。

これら要望の強い項目は、以下の4つに分類される。

ア. その領域で世界的に最新の知識・技術に係わるもので、我国もその修得に力を注いでいるもの。

イ. 我国では、既に確立された知識・技術であり、これのエキスパートは多数いるもの。

ウ. インドの特殊な疾病構造、または医療事情からでた要望。

エ. 既に、名古屋大学あるいは他施設の専門家との間で、交流を始めていて、その中で相互に合意したもの。

これらのうち、イ、エ、についてはエキスパート派遣は問題ないと思われるが、ア、については、場合によっては少し派遣時期を先に延ばす等の考慮が必要かも知れない。

ウ、については、双方の要望を十分理解した上で適切な人選が望まれる。

協力方法については、6ヶ月又は1年というまとまった期間が必要なものと、3ヶ月単位で対応できるものがある。

6ヶ月以上に亘る協力が望ましいものでも、必ずしも同一人でなくとも複数のエキスパートが3ヶ月ずつ、つないでゆくことで目的達成が可能なものも少なくないであろう。

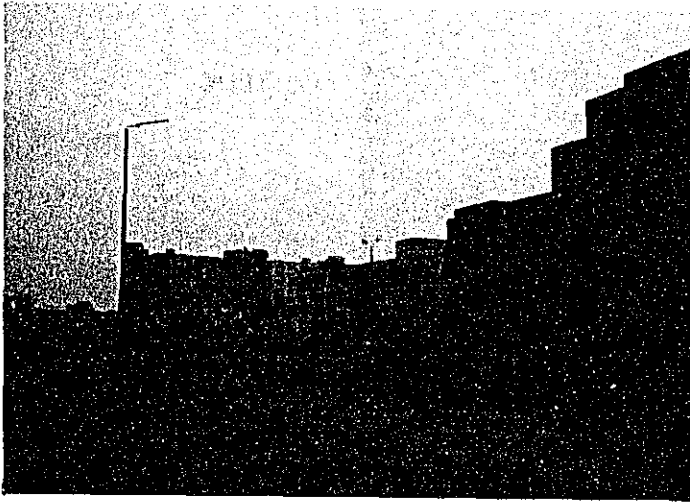
スタッフの充足状況は順調で、特にインド側が今回の協力を要請している部門については、ほぼスタッフ3～4人（教授・助教授・講師）とレジデント4～8人が決まっている。

従って、先方の要望のエキスパート派遣に対する受け入れ状況は、人的な面ではほぼ整ったと考えられる。

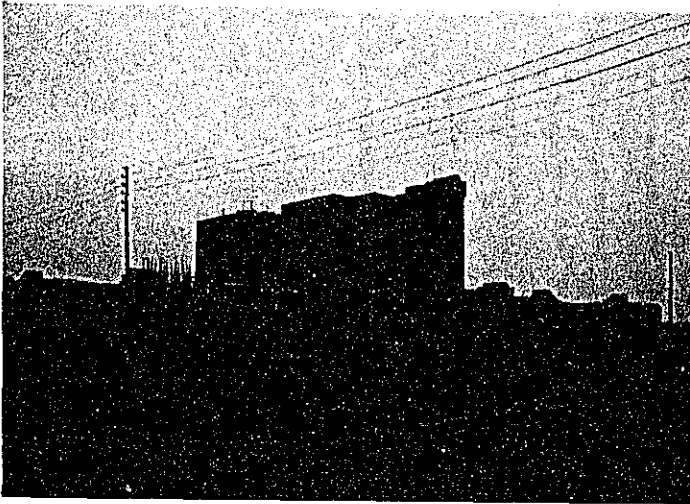
但し、clinical studyの場合は、器機の整備・稼動状況が明らかであるが、研究面での協力となると、実際に必要な実験器具等の整備状況は必ずしも明確でないので、事前の確認が必要である。

5. 別添資料

(1) 関連写真



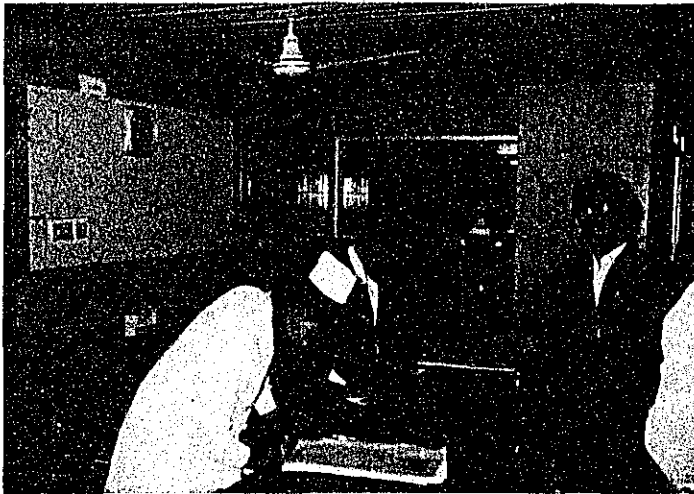
サンジャイ・ガンジー
医科学研究所
—左から中央病棟、
管理棟、宿舎—



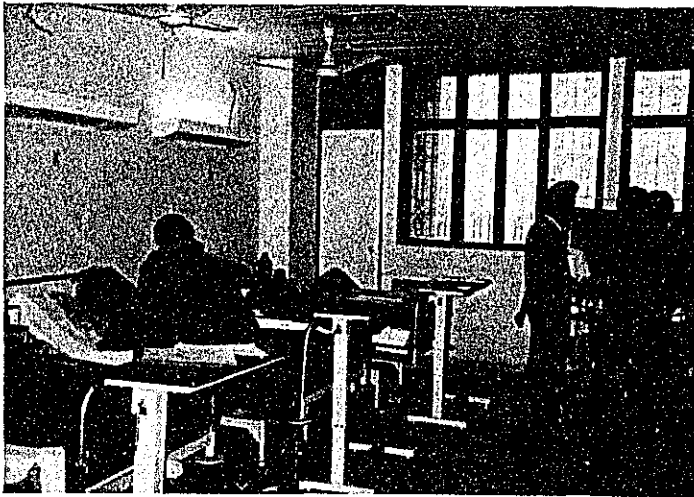
同研究所
—奥：中央病棟、
手前：中央検査、
外来等の施設

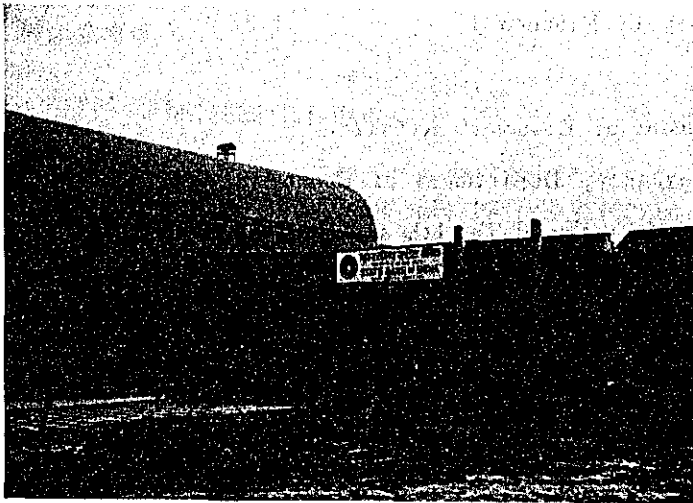


各専門部門の教授との
意見交換

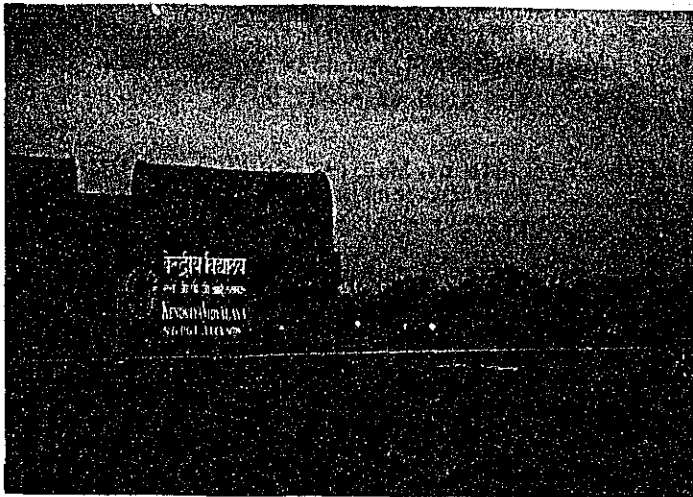


研究所病棟

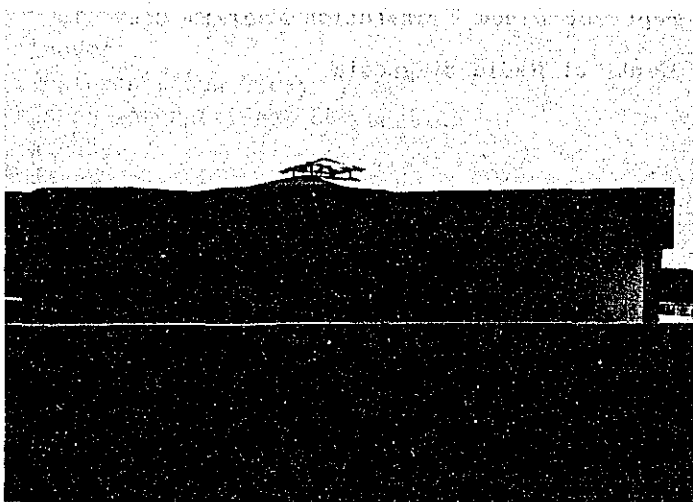




研究所内の銀行



小・中学校



幼稚園

(2) 主要面談者リスト

ア. インド政府大蔵省 (Ministry of Finance)

○ Mr. P. G. Mankad

Joint Secretary, Department of Economic Affairs

○ Mr. S. Joshi, Deputy Secretary, Department of Economic Affairs

イ. インド政府保健家族福祉省 (Ministry of Health and Family Welfare)

○ Mr. R. K. Ahooja (R/D 署名者)

Joint Secretary, International Health, Department of Health

○ Mrs. V. Maitra

Director, International Health, Department of Health

ウ. ウッタール・プラデシュ州政府 (Government of Uttar Pradesh)

○ Mr. R. K. Bhargava, Chief Secretary

○ Mrs. V. Swarup (R/D 署名者), Joint Secretary, Department of Health

○ Mr. S. B. Sharma, Secretary, Medical Education

エ. サンジャイ・ガンジー医科学研究所

(Sanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences - SGPGI -)

○ Dr. B. B. Sethi (R/D 署名者), Director

○ Dr. S. S. Agrwal, Dean, Head, Dept. of Genetics and Immunology

○ Dr. D. K. Chhabra, Head, Dept. of Neurosurgery

○ Dr. S. R. Naik, Head, Dept. of Gastroenterology

○ Dr. B. K. Das, Head, Dept. of Nuclear Medicine

○ Dr. M. Bhandari, Head, Dept. of Urology

○ Dr. P. K. Ghosh, Head, Dept. of Cardiovascular and Thoracic surgery

○ Dr. J. G. Jolly, Head, Dept. of Blood Transfusion Medicine

○ Dr. R. B. Gujral, Head, Dept. of Radio diagnosis

オ. 日本大使館

野田英二郎大使

旭 英昭参事官

西郷 正道一等書記官

カ. 国際協力事業団インド事務所

倉林 太郎所長

(3) Record of Discussions

(討 議 事 録)

RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDIA
ON THE SANJAY GANDHI POST-GRADUATE INSTITUTE
OF MEDICAL SCIENCES PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Nobuo Kato, Nagoya University, visited the Republic of India from February 6th to February 16th, 1990, for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Sanjay Gandhi Post-Graduate Institute of Medical Sciences (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of India, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indian authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both governments for successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Delhi, February 15, 1990

Nobuo Kato

Prof. Nobuo Kato
Leader,
Implementation Survey Team
Japan International Cooperation
Agency,
Japan

R. K. Bhojja

R. K. Bhojja
Joint Secretary,
International Health,
Department of Health,
Ministry of Health and Family
Welfare,
India

B. B. Sethi

Dr. B. B. Sethi
Director,
Sanjay Gandhi Post-Graduate
Institute of Medical Sciences,
India

Vrinda Swarup

Vrinda Swarup
Joint Secretary,
Department of Health,
Government of Uttar Pradesh,
India

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of India will cooperate with each other in implementing the Project for the purpose of contributing to the improvement of the national health standard and to the promotion of the people's welfare in the Republic of India through the development of health-related manpower.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan given in Annex I.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide, at its own expense, the services of Japanese experts as listed in Annex II through normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Japanese experts, referred to in 1 above and their families will be granted in the Republic of India privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to the experts of third countries working in the Republic of India under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide, at its own expense, such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for implementation of the Project as listed in Annex III, through normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan, through JICA will provide the experts referred to in Annex II with such machinery, equipment and other materials as are needed for accomplishing of their official duties (hereinafter referred to as "the Expert-Accompanied Equipment"). The Japanese experts shall be given priority in use of "the Expert-Accompanied Equipment" during their service in the Republic of India.
3. The Equipment and the Expert-Accompanied Equipment will become the property of the Government of the Republic of India upon being delivered c.i.f. to the Indian authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.

bb

[Handwritten signature]

M.K.

IV. TRAINING OF INDIAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive, at its own expense, the Indian personnel connected with the Project for technical training in Japan through normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
2. The Government of the Republic of India will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Indian personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for implementation of the Project.

V. SERVICES OF INDIAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of India, the Government of the Republic of India will take necessary measures to secure, at its own expense, the necessary services of Indian counterpart and administrative personnel as listed in Annex IV.
2. The Government of the Republic of India will allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in Annex II, for effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDIA

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of India, the Government of the Republic of India will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Land, building and facilities as listed in Annex V;
 - (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for Project implementation other than those provided through JICA under III above;
 - (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of Japanese experts within the Republic of India;
 - (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families; and
 - (5) Medical facilities for the Japanese experts and their families.
2. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of India, the Government of the Republic of India will take necessary measures to meet:
 - (1) Expenses necessary for transportation of the Equipment and the Expert-Accompanied Equipment within the Republic of India as well as for installation, operation and maintenance thereof;
 - (2) Customs duties, internal taxes and any other charges imposed on the Equipment and on the Expert-Accompanied Equipment in the Republic of India; and
 - (3) All running expenses necessary for implementing of the Project.

bb

[Handwritten signature]

M.K.

VII. ADMINISTRATION OF PROJECT

1. The Ministry of Finance will bear overall responsibility for successful implementation of the Project.
2. The Department of Health of the Government of Uttar Pradesh will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.
3. The Director of the Sanjay Gandhi Post-Graduate Institute of Medical Sciences (hereinafter referred to as "SGPGI") will be responsible for the technical and practical matters.
4. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Indian counterpart personnel associated with the Project pertaining to Project implementation.
5. For successful Project implementation, the Coordinating Committee will be established with the functions and composition as specified respectively in Annex VI.

VIII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of India undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts assignment in the Project, resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of India, except for those arising from willful misconduct or gross negligence by the Japanese experts.

IX. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultations between the two governments on any major issues arising from, or in connection with, this Attached Document.

X. TERM OF COOPERATION

The duration of technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five (5) years from August 1, 1990.

bb

Q
des

M.K.

ANNEX

I. MASTER PLAN

1. Goal of the Project

The goal of the Project is to contribute to the improvement of the national health standard and to the promotion of the people's welfare in the Republic of India through development of health-related manpower.

2. Objectives of the Project

The objectives of the Project are:

- (1) to promote research activities of SGPGI as a tertiary medical center and as a post-graduate institute of medical science;
- (2) to promote research activities of SGPGI in the fields of health science, especially in the fields described in Annex II;
- (3) to promote appropriate transfer of technology related to sophisticated medical equipment;
- (4) to provide an infrastructure and resource base which would enable SGPGI to acquire leadership in the fields described above; and
- (5) to implement other activities mutually agreed upon as necessary.

3. Implementation of Technical Cooperation

Japanese technical cooperation for the Project will be implemented through;

- (1) dispatch of Japanese experts;
- (2) acceptance of Indian personnel for training in Japan;
- (3) provision of equipment and materials; and
- (4) other forms of cooperation mutually agreed upon as necessary.

[Handwritten signature]

M.K.

II: JAPANESE EXPERTS

1. Team leader

2. Coordinator

3. Experts in the fields of:

(1) Special research departments

- a. Neurology and neurosurgery
- b. Cardiology and cardiovascular surgery
- c. Gastroenterology - medical, surgical
- d. Urology and nephrology
- e. Endocrinology - medical, surgical
- f. Genetics and immunology

(2) Other investigative departments

- a. Radiology and nuclear medicine
- b. Anesthesiology
- c. Pathology including clinical laboratory medicine
- d. Microbiology including parasitology
- e. Transfusion medicine
- f. Radiotherapy

(3) Maintenance of medical equipment

(4) Documentation / Audio-visual aids in medical education and research

(5) Other fields mutually agreed upon as necessary

bp

M.K.

[Handwritten signatures]

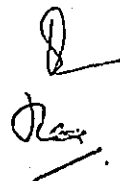
III. EQUIPMENT

Equipment for the following fields:

1. Special research departments
 - a. Neurology and neurosurgery
 - b. Cardiology and cardiovascular surgery
 - c. Gastroenterology — medical, surgical
 - d. Urology and nephrology
 - e. Endocrinology — medical, surgical
 - f. Genetics and immunology
2. Other investigative departments
 - a. Radiology and nuclear medicine
 - b. Anesthesiology
 - c. Pathology including clinical laboratory medicine
 - d. Microbiology including parasitology
 - e. Transfusion medicine
 - f. Radiotherapy
 - g. Clinical laboratory
3. Maintenance of medical equipment including, spares
4. Other fields mutually agreed upon as necessary

DB

M.K.



IV. INDIAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Director of SGPGI

2. Counterpart personnel in the fields of:

(1) Special research departments

- a. Neurology and neurosurgery
- b. Cardiology and cardiovascular surgery
- c. Gastroenterology - medical, surgical
- d. Urology and nephrology
- e. Endocrinology - medical, surgical
- f. Genetics and immunology

(2) Other investigative departments

- a. Radiology and nuclear medicine
- b. Anesthesiology
- c. Pathology including clinical laboratory medicine
- d. Microbiology including parasitology
- e. Transfusion medicine
- f. Radiotherapy
- g. Clinical laboratory

(3) Maintenance of medical equipment

(4) Other fields mutually agreed upon as necessary

3. Administrative personnel and necessary supporting staff

4. Maintenance Engineers

5. Other personnel mutually agreed upon as necessary

bb

M.K.

Q
De
✓

V. LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land

2. Buildings and facilities

- (1) Sufficient space for Project implementation
- (2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts
- (3) Facilities such as electricity, gas and water, sewerage systems, telephone and furniture necessary for activities under the Project

3. Land and buildings for the Project

bb

M.K.

Q
day

VI. THE COORDINATING COMMITTEE

A Coordinating Committee for smooth implementation of the Project is expected to be established at the start of the Project.

1. Composition

- (1) Chairman: Joint Secretary (International Health), Ministry of Health and Family Welfare, Government of India
- (2) Members:

Indian side:

- a. Deputy Secretary (Medical), Ministry of Health and Family Welfare, Government of India
- b. Deputy Secretary (Investment), Department of Economic Affairs, Ministry of Finance, Government of India
- c. Joint Secretary, Department of Health, Government of Uttar Pradesh
- d. Director, Sanjay Gandhi Post-Graduate Institute of Medical Sciences

Japanese side:

- a. Team leader
- b. Coordinator
- c. Representative of JICA in India
- d. Japanese experts
- e. Other personnel to be dispatched by JICA

Note: Official(s) of the Embassy of Japan and officials of the Ministry of Finance of India may attend the Coordinating Committee as observer(s).

66

M.K.

Ree

(4) Tentative Schedule of Implementation

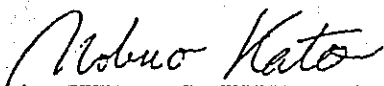
(暫定実施計画書)

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
OF
THE SANJAY GANDHI POST-GRADUATE INSTITUTE
OF
MEDICAL SCIENCES PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") and the Indian authorities concerned have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project as annexed hereto.

This has been formulated in line with the Attached Document of the Record of Discussions signed between the Team and the Indian authorities concerned with the Project on the condition that the necessary budget will be allocated for Project implementation, though it is subject to change within the framework of the Attached Document if the necessity arises in the course of implementation.

Delhi, February 15, 1990



Prof. Nobuo Kato
Leader,
Implementation Survey Team
Japan International Cooperation
Agency,
Japan



Dr. B. B. Sethi
Director,
Sanjay Gandhi Post-Graduate
Institute of Medical Sciences,
India

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
THE SANJAY GANDHI POST GRADUATE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES PROJECT

Fiscal Year (April-March)	1 9 9 0 / 9 1 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 9 9 1 / 9 2 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 9 9 2 / 9 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 9 9 3 / 9 4 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 9 9 4 / 9 5 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	1 9 9 5 / 9 6 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
1. Dispatch of Japanese Experts to India						
(1) Team Leader	-----	-----	-----	-----	-----	-----
(2) Coordinator	-----	-----	-----	-----	-----	-----
(3) Special research departments	-----	-----	-----	-----	-----	-----
a. Neurology and neurosurgery	-----	-----	-----	-----	-----	-----
b. Cardiology and cardiovascular surgery	-----	-----	-----	-----	-----	-----
c. Gastroenterology medical & surgical	-----	-----	-----	-----	-----	-----
d. Urology and nephrology	-----	-----	-----	-----	-----	-----
e. Endocrinology medical & surgical	-----	-----	-----	-----	-----	-----
f. Genetics and immunology	-----	-----	-----	-----	-----	-----
(4) Other investigative departments	-----	-----	-----	-----	-----	-----
a. Radiology & nuclear medicine	-----	-----	-----	-----	-----	-----
b. Anesthesiology	-----	-----	-----	-----	-----	-----
c. Pathology-clinical laboratory medicine	-----	-----	-----	-----	-----	-----
d. Microbiology -parasitology	-----	-----	-----	-----	-----	-----
e. Transfusion medicine	-----	-----	-----	-----	-----	-----
f. Radiotherapy	-----	-----	-----	-----	-----	-----

The schedule of dispatch of Japanese experts after the first fiscal year is subject to further discussion.

bb *Setm*

AK

(5) Minute of Discussions

MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JICA IMPLEMENTATION
SURVEY TEAM ON THE TECHNICAL COOPERATION PROGRAMME
AND GOVERNMENT OF UTTAR PRADESH & SGPGI

FEBRUARY 7 - 9, 1990

The Japanese Implementation Survey Team led by Dr. Nobuo Kato along with Dr. Hiroshi Hayashi, Mr. Toshio Kato, Mr. Tatsuro Koga and Mr. Kazuo Nakagawa visited the SGPGI and held discussions with the Government of Uttar Pradesh and the SGPGI to finalize the draft of Record of Discussions and review the priorities of technical cooperation programme. During discussions following observations were made:

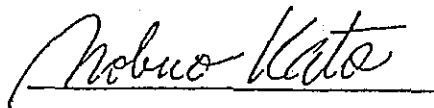
- 1) It was agreed that wherever the mention of provision of equipment and materials is made, the word 'spares' may also be included.
- 2) Regarding the visit of Japanese experts to the SGPGI during 1990-91, the SGPGI suggested that the visit of experts may be 6 persons at one time between September to March. A total of 12 such visits in addition to the team leader and coordinator for 1990-91 were considered appropriate from both sides to begin with. The details for the fiscal year 1991-92 will be discussed with the Japanese mission during later part of 1990.
- 3) In addition to above changes in the draft document certain other issues which were discussed were as follows:
 - a) The terms and conditions of allowances and other facilities that would be available to the Indian trainees in Japan under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme will be provided by JICA.

- b) The question of obtaining appropriate clearances for the Japanese experts engaged in clinical work at the SGPGI would be discussed after the arrival of the Japanese team leader.
- c) A list of Medical equipment, materials and spares needed for the execution of Technical Cooperation Programme for the fiscal year 1990-91 will be prepared by the SGPGI and sent to JICA for its consideration.
- d) The Institute would make arrangements to provide office space to team leader with appropriate office facilities including telephone. Office space with appropriate office facilities including telephone for the coordinator & visiting Japanese experts would also be provided. A secretarial assistance for the Japanese group would be needed.
- e) The Institute will provide two vehicles with air-conditioners to the team leader and Japanese group.
- f) Details of expenditure towards local costs of the offices for Japanese team will be discussed subsequently.
- g) The Institute would provide type V accommodation to the team leader throughout his stay at the Institute for 5 years.

M.K. bb

- h) To the coordinator, the Institute would provide transit accommodation for 5 years. To the visiting experts, the Institute would provide the Guest House facility for a period upto 2 weeks and Guest House annex (PRA) for a period not more than 3 months. For experts staying on for upto one year transit accommodation will be provided. Further discussions are required to determine the quantum of rent etc., to be charged for accommodation and utilities.
- i) The Indian side reiterated their request that a team consisting of Administrative and Technical Experts shall visit Japan for two weeks to observe the facilities available for training. The Japanese side will consider the request and convey the decision later.

Delhi, February 15, 1990



Prof. Nobuo Kato
Leader
Implementation Survey Team
Japan International
Cooperation Agency
Japan.



Dr. B.B. Sethi
Director
Sanjay Gandhi Post -
Graduate Institute of
Medical Sciences
India.

BB

TIMES OF INDIA (16TH FEBRUARY, 1990)

Japan to help better Indian health standard

The Times of India News Service

NEW DELHI, February 15: As part of a technical cooperation programme, the Japanese government will be helping the Indian government to implement a programme aimed at improving the national health standard and developing health-related manpower.

According to an official statement, a Japanese implementation survey team, which was in India to work out the details, and the health ministry finalised the agreement today.

Under this programme, the Sanjay Gandhi Post-Graduate Institute of Medical Sciences, Lucknow, will be provided equipment by the Japanese government, which will also provide training to Indian personnel in their country. Japanese experts will also be visiting the Institute.

The Lucknow-based institute has been receiving Japanese assistance for the past four years, mainly in the form of equipment, it was stated.

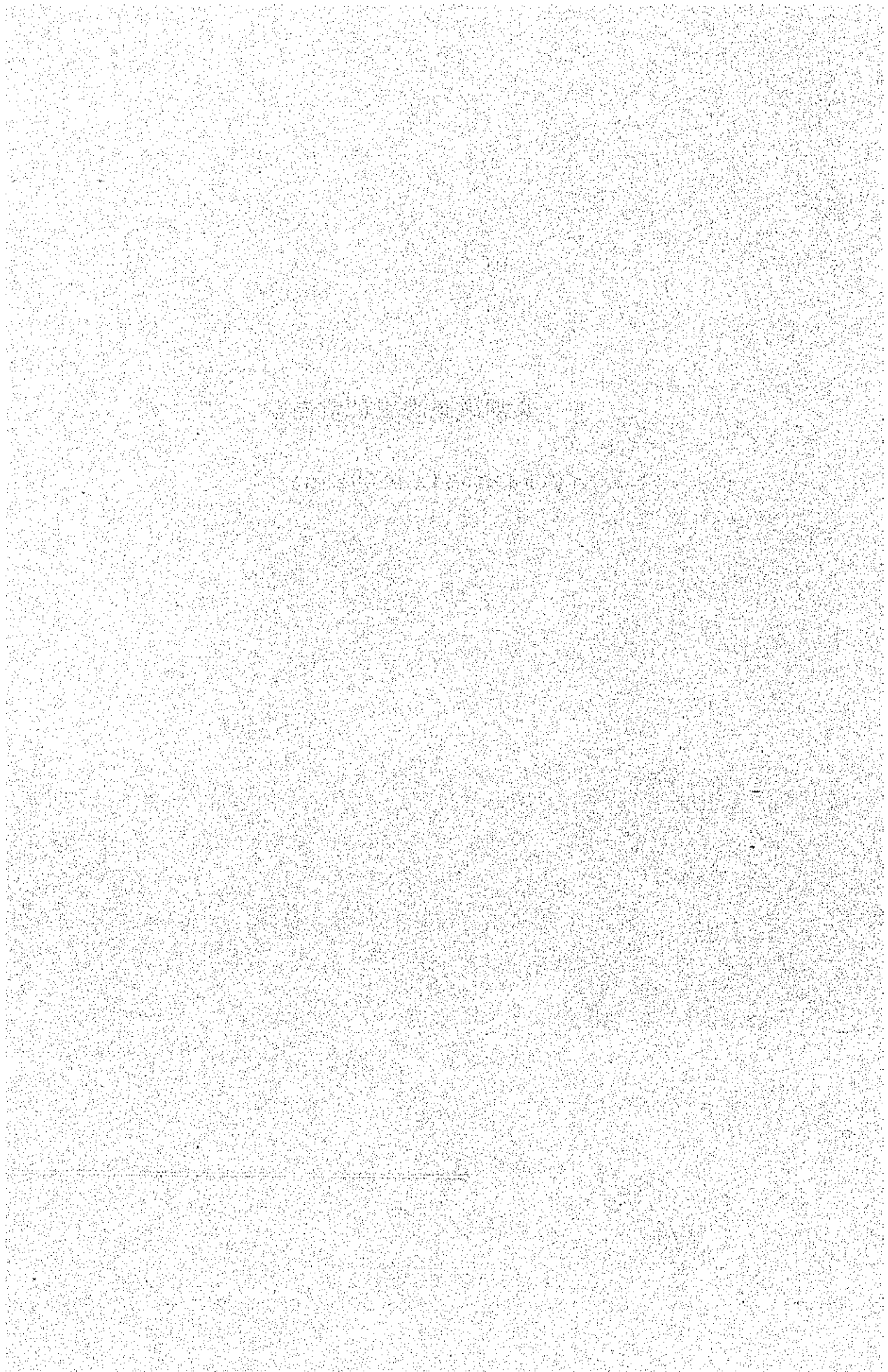
FACULTY POSITION

<u>DEPARTMENT</u>	<u>NAME</u>	<u>DESIGNATION</u>
Director	Prof. B.B. Sethi	Director
Genetics	Prof. S.S. Agarwal	Professor & Head & Dean
	Dr. Suraksha Agarwal	Assistant Professor
	Dr. Sarita Agarwal	Assistant Professor
	Dr. Balraj Mittal	Assistant Professor
	Dr. Anita K. Sharma	Assistant Professor
Immunology	(Prof. S.S. Agarwal	Professor & Head)
	Dr. Sita Naik	Associate Professor
	Dr. Aruna Parashar	Assistant Professor
	Dr. R.R. Singh	Assistant Professor
	Dr. R.N. Misra	Assistant Professor
	Dr. V.K. Singh	Assistant Professor
Neurosurgery	Prof. D.K. Chhabra	Professor & Head
	Dr. V.K. Jain	Associate Professor
	Dr. Piyush Mittal	Assistant Professor
	Dr. G. Nagesh Babu	Assistant Professor
	Dr. Isha Tyagi	Assistant Professor
Neurology	Dr. U.K. Mishra	Associate Professor & Head
	Dr. Sunil Pradhan	Assistant Professor
	Dr. Anoop Kohli	Assistant Professor
Cardiology	Prof. P.S. Bidwai	Professor & Head
	Dr. Nakul Sinha	Assistant Professor
	Dr. S. Radhakrishnan	Assistant Professor
	Dr. P.K. Goel	Assistant Professor
Cardiovascular Surgery	Prof. P.K. Ghosh	Professor & Head
	Dr. T.S. Mahant	Associate Professor
	Dr. P.K. Mittal	Assistant Professor
	Dr. A.K. Ganjoo	Assistant Professor
	Dr. A.K. Srivastava	Assistant Professor
Gastro- enterology (Medical)	Prof. S.R. Naik	Professor & Head
	Dr. G. Chaudhury	Assistant Professor
	Dr. V.A. Saraswat	Assistant Professor
Gastro- enterology (Surgical)	Dr. V.K. Kapoor	Assistant Professor & Head
	Dr. Rajan Saxena	Assistant Professor

Endocrinology	Dr. Ambrish Mittal	Assistant Professor & Head
	Dr. M.M. Godbole	Assistant Professor
	Dr. Eesh Bhatia	Assistant Professor
Endocrinology (Surgery)	Dr. Vijaylakshmi Bhatia	Assistant Professor
	Dr. S.K. Misra	Assistant Professor
	Dr. S. Bal	Assistant Professor
Urology	Prof. M. Bhandari	Professor & Head
	Dr. R.K. Ahlawat	Assistant Professor
	Dr. Anant Kumar	Assistant Professor
	Dr. Rakesh Kapoor	Assistant Professor
	Dr. R. Ravi	Assistant Professor
Nephrology	Dr. Vijay Kher	Associate Professor & Head
	Dr. R.K. Sharma	Associate Professor
	Dr. Amit Gupta	Assistant Professor
Nuclear Medicine	Prof. B.K. Das	Professor & Head
	Dr. A.B. Sewatkar	Assistant Professor
	Dr. A.K. Shukla	Assistant Professor
Transfusion Medicine	Prof. J.G. Jolly	Professor & Head
Radiology	Dr. Ratni B. Gujral	Professor & Head
	Dr. Akhilesh Kulshrestha	Assistant Professor
	Dr. R.V. Phadke	Assistant Professor
	Dr. Sumit Roy	Assistant Professor
	Dr. S.S. Baijal	Assistant Professor
	Dr. R.K. Gupta	Assistant Professor
Radiotherapy	Dr. S. Hukku	Assistant Professor & Head
	Dr. N.R. Dutta	Assistant Professor
Pathology	Dr. Rakesh Pandey	Assistant Professor & Head
	Dr. Manjula Murari	Assistant Professor
	Dr. Pradeep Tandon	Assistant Professor
	Dr. V. Ramesh	Assistant Professor
Microbiology	Dr. T.N. Dhole	Assistant Professor & Head
	Dr. K.N. Prasad	Assistant Professor
Anaesthesiology	Dr. P.K. Singh	Assistant Professor
	Dr. K.C. Pant	Assistant Professor
	Dr. A Maheshwari	Assistant Professor

Ⅱ 長期調査調査員報告書

(1989年9月18日~9月29日)



1. 調査員の構成

- 田辺 稷 (国立病院医療センター国際医療協力部 厚生技官)
 石垣 武男 (名古屋大学医学部助教授)
 佐々木健雄 (国際協力事業団医療協力部医療協力課)

2. 日程

日	年/日	行 程	調 査 内 容
	1989年		
1	9 / 18 (月)	田辺・佐々木 東京発 (18 : 00) AZ-787	
2	9 / 19 (火)	デリー着 (01 : 05)	日本大使館表敬 JICA 事務所表敬および打合せ
3	9 / 20 (水)		インド政府大蔵省・保険省表敬および打合せ、ニューデリー市内遺伝学・細胞生物学生端研究センター、病理学研究所、医学統計局等関係機関視察
4	9 / 21 (木)	田辺・佐々木 デリー発 (09 : 00) IC-409 ラックナウ着 (09 : 30)	石垣のみ 東京発 (12 : 20) AI-307 デリー着 (17 : 40)
5	9 / 22 (金)	ウッターール・ブラデッシュ州政 府保健省表敬 SGPGI との協議	デリー発 (09 : 00) IC-409 ラックナウ着 (09 : 30)
6	9 / 23 (土)	SGPGI との協議	
7	9 / 24 (日)	資料整理	
8	9 / 25 (月)	SGPGI との協議	

9	9 / 26 (火)	ラックナウ発 (16 : 45) IC-410 デリー着 (17 : 35)	
10	9 / 27 (水)	UNICEF 関連機関の視察	
11	9 / 28 (木)		大使館・JICA 事務所に報告
12	9 / 29 (金)	デリー発	

3. 調査目的

- (1) SGPGI 施設建設状況、機材据付状況およびスタッフ配置状況
- (2) 協力分野、規模、方法等に関する協議
- (3) 実施協議調査に係る事前打ち合せ

4. 調査結果総括

(1) はじめに

インド政府は同国の保健衛生環境の改善のための人材養成、高度医療サービスの提供、国際的水準の医学研究等を目的として、サンジャイ・ガンジー医科学研究所 (Sanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences, SGPGI と略称) を設立した。しかしながら、先端的医療・医学研究に必要な機材の大半はインド国内で生産されていないため、わが国に対し無償資金協力による機材供与を要請してきた。これを受けて、わが国は昭和 61・62 年度に総額 33 億円にのぼる機材を供与した。翌昭和 63 年には SGPGI スタッフの医療技術の向上を目的としてわが国に対し、プロジェクト方式技術協力を要請してきた。インド側から提出された要請書によれば、近代的医学のすさまじい進歩を認めたくえで、そのことが先進国と途上国の間に大きな格差を生む結果となったと指摘している。連邦政府とウッターール・プラデッシュ (UP) 州とは、この進歩した医学の成果を appropriate transfer of technology によって国民に与えたいとの希望を表明している。先進的な高性能機械をインド国内に移入することはそのうちの一部であり、transfer of technical skills および transfer of managerial skills が合わせて行なわなければならないと述べている。要するに、最先端の医療機材とその使用についての know-how を導入することによって、あまりにもかけ離れてしまった先進国との医療技術のギャ

ップを埋めたいという希望が、インドからの技術協力の要請となったと理解される。具体的な要請の骨子としては、機材の大半が日本から輸入されることから、①SGPGI スタッフの各種の技術的訓練を日本で行なうこと、②日本からの科学者がSGPGIを訪問し先進的技術を公開するとともに、workshopを開催する、③急速に進歩している国際的な医学レベルを維持するために、日本の進んだ研究機関との間で、長期間にわたる共同研究を行なう。(例えば熱帯病のコントロール等への遺伝子工学の応用等。)の三点を軸としている。しかしながら、全体で20項目ある専門分野構想のうち、phase Iでは、次の6項目が要請されている。それを見ると、①神経科 ②循環器科 ③消化器科 ④泌尿器科 ⑤内分泌科 ⑥遺伝・免疫科 ⑦その他関連分野となっている。今回の長期調査の主な目的は、①SGPGIの施設建設状況、供与器材の据付け状況およびスタッフの配置状況(特に前回の調査時点との比較)、②協力分野、規模、方法等に関する協議。③実施協議調査に係わる事前打ち合わせの各項目についてである。

(2) SGPGIの建築状況

ア. SGPGIは、インド国の首都ニュー・デリーから東南東に約400kmのU.P州の州都ラックナウからさらに15kmの郊外に、約550ヘクタールの広大な荒地に計画された研究学園都市(以後キャンパスと称する)の中心をなすものである。全体計画は日本の筑波研究学園都市に類するものと考えられるが、現在のところではSGPGI以外の研究施設については特に説明はなされていない。キャンパス内には所長・教授をはじめとするスタッフのための住宅、職員家族のための幼稚園、学校、スーパーマーケット、郵便局、銀行、流動研究員のためのゲストハウス等の施設が計画されている。

イ. 管理棟; 管理棟は前回の調査でもすでに完成しているとの報告があり、SGPGIの管理部門はこの建物で業務を行なっている。またこの建物の一部には、遺伝・免疫学のうちの検査・研究部門が仮に入り(臨床部門はMain Buildingで機能している)研究活動をおこなっている。

ウ. Main Building; 基礎工事はほぼ完了。病床も10階のうち3階迄に完成し、入院患者を収容している。

臨床各科の外来部門は完全に機能しており、さらにBlood Bank、放射線科(診断部門)、臨床検査、血液透析(入院・外来ともに)なども日常業務としての機能をはたしている。Operation Theaterは現在内装を整備中であるが、完全に機能するためにはしばらくかかりそうだとの説明であった。しかし中央器材室・消毒室は機能しており、一部すでに開設している手術室を利用して外科手術などが行なわれている。われわれが見学した際には、実際に心臓の弁置換術、脳神経外科手術などがおこなわれていた。

エ. 職員のための病院(通称30床病院); 既に完成し診療も行なわれている(前回の報告書に記載)。実際に扱っているのは、脳神経外科が殆どで、収容されている患者も、

大半が脳神経外科部門の術後患者である。

オ. 機材の据付けと稼働の状況；

診断用の放射線機器は同行の石垣助教授によれば、完全に機能しているとのことであった。無償供与機材のなかでも高額であった Computed Radiography System も稼働中にあり、実際に撮影した X-線写真も診断に耐えるものとのことであった。核医学機器は、日本からの供与機材のみならず独自に購入したというドイツ製の大型機械も含めて、稼働状態にあった。その他の部門の高額機器についても、例えば結石破壊装置、血液生化学の自動分析装置など稼働している。

(3) スタッフの配置状況等

ア. 教育スタッフ 63 名 (予定数 250 名、充足率 25.2%、前回調査時点での充足率 16%)

看護婦 115 名 (1,200 名、9.6%、4.2%)

臨床検査技師 66 名 (400 名、16.5%、7.5%)

薬剤師 5 名 (25 名、20%、20% - 前回と変わらず)

診療放射線技師 5 名 (75 名、6.7%、6.7% - 前回と変わらず)

教授の配置されている科 (Genetics / Immunology 1、Neurosurgery 1、Cardiology 1、Cardiovascular Surgery 1、Gastroenterology 1、Urology 1、Transfusion 1、Diagnostic Radiology 1、Nuclear Medicine 1 の 9 部門)

教授欠員の科 (Neurology、Surgical Gastroenterology、Medical Endocrinology、Surgical Endocrinology、Nephrology、Pathology、Microbiology、Radiotherapy、Anesthesiology の 9 部門)

前回の調査時点に比較して、教育スタッフ、検査技師の充足が著しい。特に助教授層には若い人達が多く起用されている。採用されている教育スタッフの経歴も、欧米の一級の大学・研究所等で資格を得た人がかなり含まれている。これらのことから判断して研究機能が大幅に拡大されたと考えられる。

イ. その他の印象；SGPGI の各 section を回っていると、他の section に所属するスタッフが discussion や検査等に参加しているのが見かけられた。例えば、予告なしにたまたま立ち寄ったカンファレンス室では、IVP を前にして Urology、Nephrology、Endocrinology、Immunology 等の若手のスタッフが活発に討論しているのを見ることが出来た。また Radiology の section を回っているときに、Endocrinology で見せてもらった case について、放射線診断学の立場からの意見が述べられる等、各 section 間の coordination はかなり良好のようであった。

利用出来る施設を使つての研究活動も活発に行なわれており、その成果を示すような論文も出てきている。また Prof. Das は本年 12 月に SGPGI の施設を利用して Nuclear

Medecine の Annual Conference を主催することになっている等、対外的な活動も始めている。

5. 個別報告

(1) 建物の建設進捗状況

昭和63年9月における事前調査時に比べ、施設全体の整備はかなり進んでいた。Main Building の基礎工事もほぼ完了し3階までは機能していた。外来施設、臨床各科の外来棟および一部の病棟、腎透析、CCUも機能しておりそこでの治療も昨年のような見せかけのものではなく実際に日常業務が行われていた。また外来受付業務もIDカード方式を導入して行われ、カルテの管理も中央方式になっているようであった。平成元年12月にはさらに上方階も機能し始めるとのことであったが外科系における主たる手術室(Main Operation Theater)の完成は来年度後半以降になりそうである(非公式見解)。しかし現段階においてもすでに手術は分散した場所で行われており心臓弁置換術、脳腫瘍摘除術等を実際見学した。例えば脳外科は、施設内の30ベッド病院の半分以上を占拠して手術を行い入院患者を収容していた。昨年昭和63年の調査時にSGPGI側が説明したように出来上がった建物を最大限に利用しているようであった。ちなみに免疫・遺伝学検査室は昨年同様管理棟内で機能していたが患者はMain Building内に入院していた。SGPGI側の説明では現在190床が可動しており平成元年12月には300床が機能するとのことである。放射線治療棟はまだ建築中であり来年度早々に機能するとのことであった。

Main Buildingの建築状況に関する結論は昭和63年度調査時にはほとんど機能していなかったもので単純には比較出来ないが7割以上は完成しており、又SGPGIにおける施設使用の方針が使える場所を一次的にでも有効に使用するというもののように各診療科の活動も順調に進みつつあるとの印象である。

他の建物の建築も昭和63年に比べ進んでいた。職員宿舎にはかなり入居しておぬ教授宿舎には既に7~8家族が生活していた。又講師~助教授クラスの宿舎の建設も進んでおり出来上がり次第敷地内での転居予定をしているとのことであった。看護宿舎も完全に機能しているようであった。

(2) 無償供与機材設置・稼動状況

放射線機器はほぼ機能しており、第2期設置のため昭和63年度はまだ設置されていなかった我が国の誇るコンピューテッドラジオグラフィも初期段階の稼動は十分行われていた。また高額機器である結石破砕装置をはじめ他の部門における検査機器も稼動していた。

(3) スタッフのリクルート状況

SGPGI側より提供された資料でも病院・研究所の機能を果たすのに最低限の人員は確保されつつあるがまだ十分ではない。ただし提供された資料は最新のものでもなさそうで

あり、各部門において提供された資料及び個人的情報も加えて各部所における Teaching Staff とレジデントの数を以下に示す。

部 門	教 授	助教授等	レジデント
Genetics	* 1	4	0
Immunology	* 1	4	2
	(* 併任)		
Neurosurgery	1	4	2
Neurology	0	3	2
Gardiology	1	3	4
Cardiovascular Surgery	1	4	2
Gastroenterology	1	2	2
Surgical Gastroenterology	0	2	2
Endocrinology (Medical)	0	5	1
Endocrinology (Surgical)	0	1	0
Urology	1	4	4
Nephrology	0	3	3
Pathology	0	4	0
Microbiology	0	2	0
Transfusion Medicine	1	0	0
Radiology (Diagnosis)	1	4	2
Radiotherapy	0	2	0
Nucler Medicine	1	3	4
Anesthesiology	0	2	5

(4) 専門家の住居等

レジデントの住居は短期派遣にしても住居として適当ではない。

ゲストハウスは実際に2泊の経験をしたが準ホテル並みである。しかし3ヶ月程度の短期にしても冷蔵庫、バスタブ等の設備が必要の旨要求した。ゲストハウスでの食事は朝食のみしか経験しなかったので日常どのようなメニューができるのかははっきりしていない。

6ヶ月またはより長期の滞在はゲストハウスでは精神的に困難であろう。スタッフの宿舎クラスが必要ではないか。

チームリーダー、コーディネータには教授宿舎クラスの施設が必要であることを要求した。

ゲストハウスに宿泊する場合を除いて施設内住居ではハウスキーパー・ロックが必要で

あるが英語が話せる人材が得られるかどうかはなほだ疑問である。ちなみにゲストハウスのコックに色々質問したが英語はほとんど理解出来ないようであった。

施設外の借家も可能であるとのことだが、使用人、コックの問題に加えて夏期における停電が問題であり施設内ならその心配はない。ホテルはクラークホテル以外は住めそうもないとのこと。いずれにしても施設と町の往復に車2台は必要である旨要求した。

家族で出張する場合には子弟の教育が問題であり、日本人はもとより他の外国人もほとんどラックノウには住んでいないようで、地元の学校で英語教育を行う所しかないようであるが、本件に関しては直接作用した他2名の団員の意見を聞かれない。

(5) その他

今回の調査において SGPGI の診療・研究・教育に対する並々ならぬ熱意を感じたが特に若いスタッフを厳選して迎えているようであり、最新の高度な機材を導入して世界に誇るような研究施設を目指している。MRI も来年度 2 テスラーの磁場強度の最新のものを導入するとのことである。しかしまだ基本的な技術において名古屋大学側が提供すべきものは多々あり、強力なる技術協力が必要と思われる。このプロジェクトを成功させるためには優れた専門家の派遣は当然のことであるが、派遣専門家の病院内の活動を潤滑にさせるチームリーダーと、生活環境の面での補助をしてくれる有能なるコーディネーターの選択がキーポイントとなると思われる。各人の専門分野における活動においては問題なさそうであるが、生活環境が甚だしく異なるラックノウにおいては肉体的・精神的な快適さを少しでも向上させるような配慮がなされる必要があり、それを達成できるようなコーディネーターの選択が望まれる。

6. 専門家の活動環境

(1) 施設整備の状況

SGPGI 各施設の建設は 1984 年 1 月から始められた。病院および研究センターのうち、外来棟、研究・検査部門、中央診療部門およびその他のサービス部門は 1～2 回の低層建物を構成し、病棟は 10 階建の高層建築である。病院および研究センターの建物群とは別に建てられたプライマーヘルスセンターは 1986 年に完成し、1986 年中には業務開始の計画であったが、実際には 1988 年 1 月から開始され、現在は 100% 機能を発揮している。外来診療病棟、研究・検査部、中央診療部、病棟 600 床のうち 190 床が使用を開始している。外来診療棟は 1987 年 8 月に業務を開始した。外来は非常に活発に活動している。1988 年は外来 18,000 人以上の新患が昨年登録された。現在放射線部、病理部、麻酔部、輸血部も業務を開始し、すべての分野はほぼ完全に活動している。核医学部は 1989 年 1 月に開始予定である。集中治療部と血液透析は既に機能を発揮している。病床のうち 190 床が利用されており 1989 年 12 月までに 300 床を

使用可能とするように努力が払われているようである。190床の内訳は心臓病17床、心臓血管外科17床、神経科11床、神経外科25床、胃腸科20床、内分泌4床、腎臓病19床、泌尿器科25床、免疫遺伝学11床、婦人科5床、個人病棟18床、透析ベッド18床である。更に神経外科、胃腸科(外科)、一般外科、婦人科、泌尿器科、心臓血管外科の5つの手術室が現在稼働している。弁交換を含む開心外科、冠状バイパス外科が一般に実施され、さらに腎移植がはじめられた。神経外科部門は活発に活動している。胃腸・内分泌外科は新たに研究所の分野に加かった。放射線と病理の研究部門は十分に稼働している。管理棟、ゲストハウス、看護婦療、学生療、銀行、住宅、学校、患者家族よう宿泊施設、レストラン、マーケット、コミュニティーセンター棟は完成している。このうち、管理棟、ゲストハウスは1986年既に使用開始された。病院スタッフでSGPGIの住宅に居住している人の子弟を教育するための学校は1987年に開講した。インド国の方式として、各施設は完成された建物から順次運営されるというやり方で、全体として機能するのは1987年2月という計画であったが、ようやく完成に近づきつつある。

(2) 教育・診療スタッフ、パラメディカルスタッフの採用状況

現状では未だ人の面では整備が緒についた段階である。例えば、教育スタッフ予定数250名中60名(充足率24%)、看護婦1,200名中115名(9.6%)、臨床検査技師400名中66名(16.5%)、薬剤師25名中5名(20%)、診療放射線技師75名中5名(6.7%)等の数字からうかがえるが、この数字は昨年よりも確実に増えており、またSGPGI側もスタッフの整備の努力をつづけており今後期待される。

(3) 大学院生の入学状況

6専門部門および病理学、放射線医学等について、1989年1月は第一組の入学が終了し、第二組が1990年1月に受入れる予定である。内科系の学位がD. M.、外科系の学位はM. Ch. である。これらの専門部門には医系および非医系大学院生のためのPh. D. コースも用意されている。

1989年9月現在D. M., M. Ch., Ph. D.の第一組が入学し加えるに50名の研修医が臨床研修に登録している。次回1990年1月には心臓病学のD. M.、心臓血管外科M. Ch.、がその対象である。

7. 専門家の生活環境

(1) 住宅事情

SGPGIでは長期滞在者用(独身用)、長期滞在者用(家族用)、短期滞在者用(2~3ヶ月)の3種類の住宅が準備され、入居可能な状態に整備されている。が、SGPGI内部で専門家が生活する場合、市街から遠く、日常生活において日本とは比べものにならないように不便であるため十分な配慮が必要である。そのため、今回の調

査団が2泊宿泊した短期滞在者の住宅は、食堂施設があって食事の準備をしてもらうこともあり満足の行くものであったが、他の2種類の住宅については生活上（食事等の問題）に難がある。

特にプロジェクトリーダーについてはプロジェクトの代表であり、社会的な付き合いも重要となるので、現在学部長クラスの人々が居住している家屋を1件提供して頂けるように要求した。

プロジェクトリーダーおよび家族同伴の専門家は、市内に居を構えることも考えられるが、今回の調査では具体的な住居を捜し出せなかった。ただインド人スタッフによるとプロジェクトリーダー用の大型の家を探し出すことはほとんど困難である。一方夏季は2～3時間停電があり、生活をするうえで大変であるがSGPGI内部では独自の発電施設があるため、このような問題は生じない。

ガス代は通常4人家族で1タンク（600rp）/月、電気は220V、50Hであり、停電時にも発電装置があり、研究・病院活動について支障のないように準備されている。

(2) 教育事情

幼稚園についてはSGPGI内部にあり問題はない。

小学校～中学校（5～16才）についてもSGPGI内部にもあるが、英語とヒンドゥー語半々を用いるため、帰国後を考えると低学年の教育については大きな問題はないと考えられるが、高学年の子女については大きな問題はないと考えられるが、高学年の子女については英語だけを授業に用いる以下のミッション系の学校が推薦される。

なおインターナショナルスクールはない。また、これらミッションスクールには幼稚園もある。

ア. Loreto (for girls)

授業時間 9:00～1:50

授業料 130rp/man/month

入学金 500rp

イ. La Martiners (for boys)

ウ. St. Francis (for boys)

(3) 治安

インド人のスタッフに聞く限り、治安は他のインドの地域に比較しても良好であるようだ。また一般的にインド人は外国人に手を出すことはないということである。

ただ、住民にはヒンドゥー教の信者とイスラム教の信者が混在しており、一般的に人々は貧しいので全く治安に問題がないとも言い切れないと思われる。

宗教、文化、生活感覚の全く異なるインドにおける生活については、一方的に日本の考え方を押し付けたり、日本流の生活態度を押し通すことは少し控え、インド人の生活に合わせて生活してゆくという姿勢を持つ必要がある。確かに劣悪な生活環境であると考えら

れるが、インドに歩調を合わせ確かな友人を作ることが、世界のどこに行っても通用する治安対策である。確かな友は外国からの客をいつも安全に導き、危険に近づけないようにしてくれるものである。

(4) 食糧事情

ラックナウは州都であり食糧購入については大きな問題があるとは考えられない。

キュウリ、トマト、ナス、オクラ、タマネギ、豆類、ジャガイモ、米等日常野菜および穀類、リンゴ、レモン、パパイヤ等果物類、鶏肉、鶏卵についても十分確保可能である。

また牛乳・ヨーグルト等乳製品も豊富である。

ラックナウ市内には日本にあるようなスーパーマーケットがあるわけではなく、食糧の購入等は時間を要するために人に任せるようになる。

(5) 医療事情

SGPGIは高度医療機関であり、機材等は高度でかつ豊富である。一方医療スタッフは欧米での経験を持つ医師が数名いる。分野によってかなり高度な医療が受けられる。また一般病院施設があり診療については大きな問題はない。

SGPGIは研究協力を主体として実施されるが、同研究所併設の病院は高度医療も十分受けられる施設であるが、費用面での負担は所得に比べ重いようであり、一般市民に医療が直接裨益するような疫学的データも少ないようである。高度で世界的な研究を実施と同時に同研究所を中心に今後保健省などとも提携して疫学データを充実させ市民に直接裨益する医療を展開する必要もある。

(6) 医学校教育制度

ア. 5 1 / 2 年 BASIC DEGREE

M. B. B. S. (BACHELOR OF MEDICINE AND BACHELOR OF SURGERY)

イ. 3 年 POST GRADUATE DEGREE

A. M. D. (DOCTOR OF MEDICINE)

MEDICAL, GYNECOLOGY, PEDIATRICS, SKIN, RADIO THERAPY, RADIO DIAGNOSIS

B. M. S. (MASTER OF SURGERY)

GENERAL SURGERY, OPHTHALMOLOGY, ORTHOPAEDICS, OTORINOLARYNGOLOGY

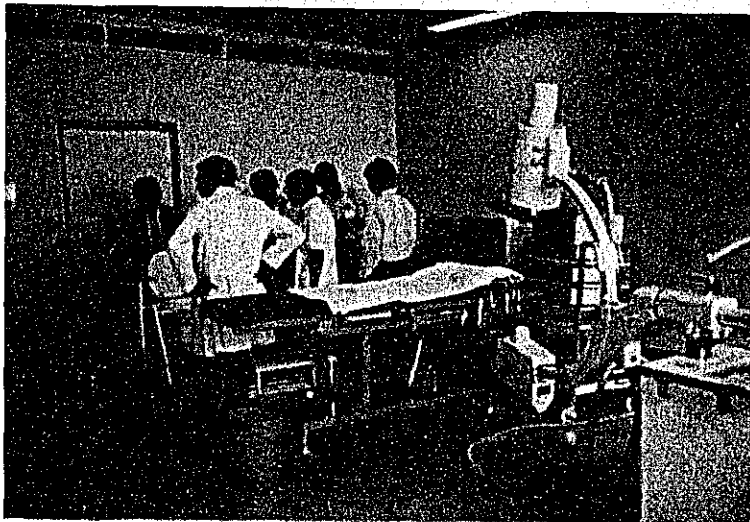
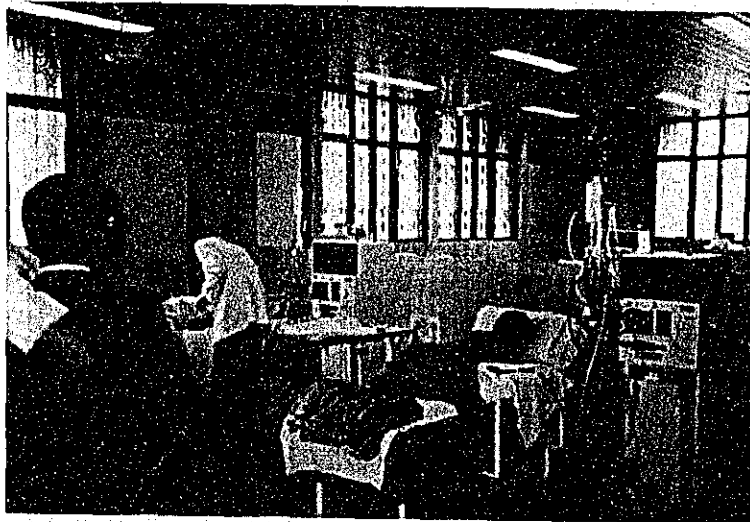
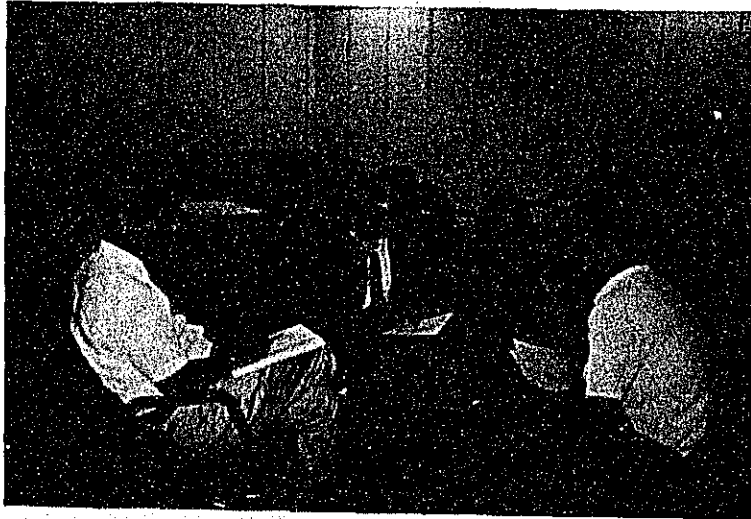
ウ. 2 ~ 3 年 SUPER SPECIALIZATION

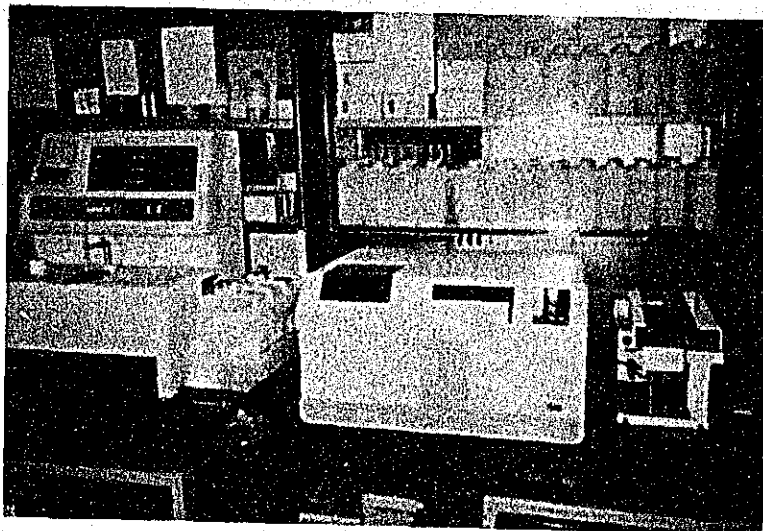
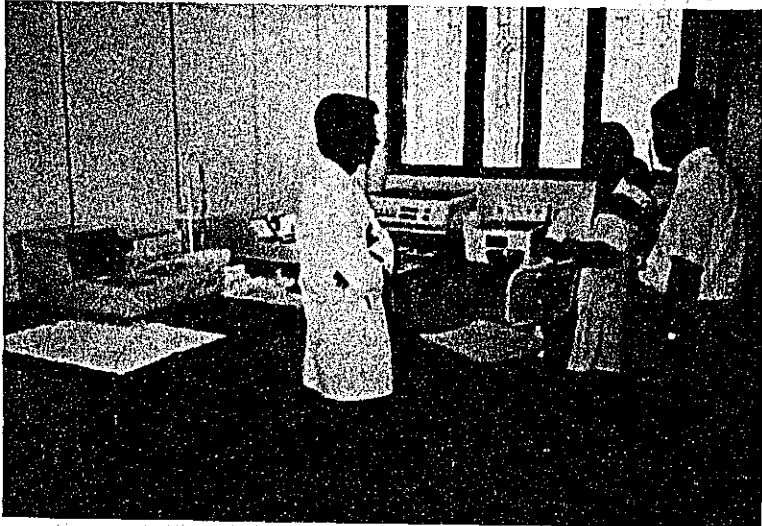
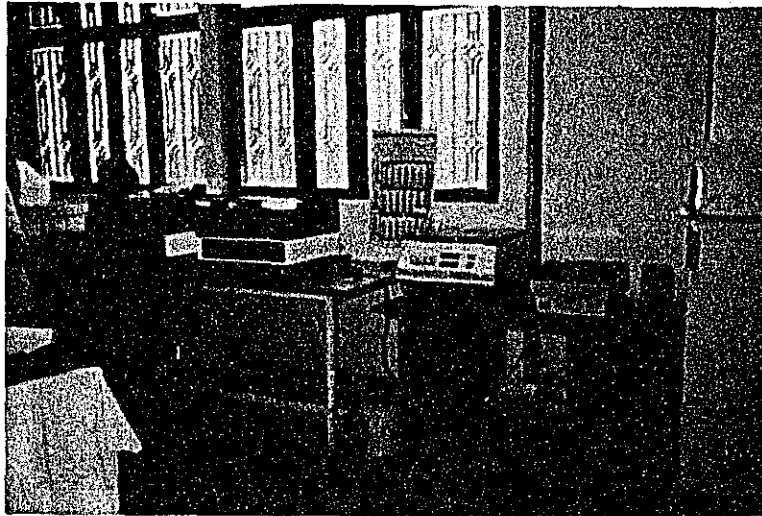
A. M. ch. (MAGISTER CHIRURGAE)

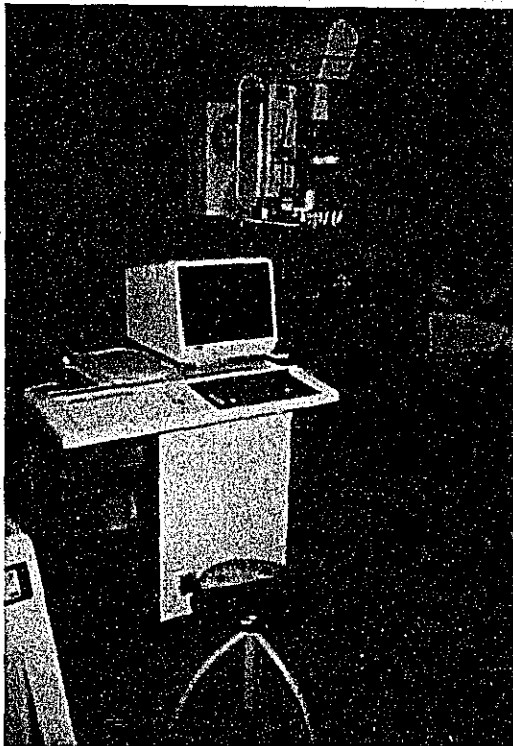
NERO SURGERY, RADIO SURGERY, PLASTIC SURGERY UROLOGY

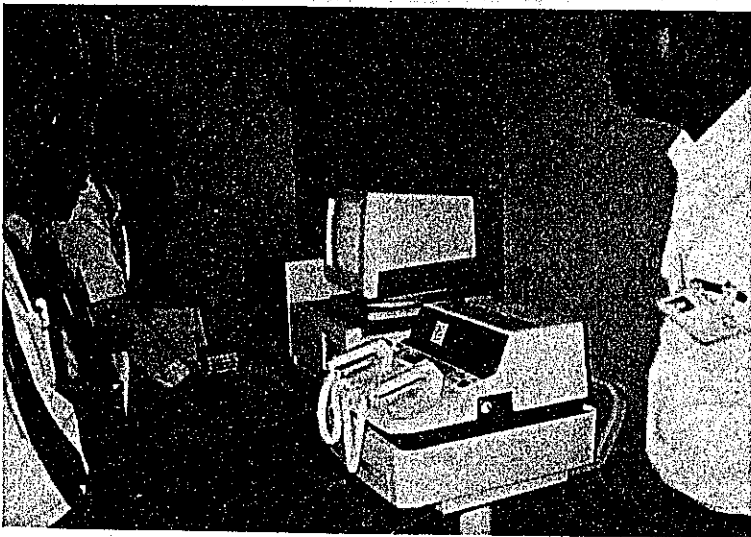
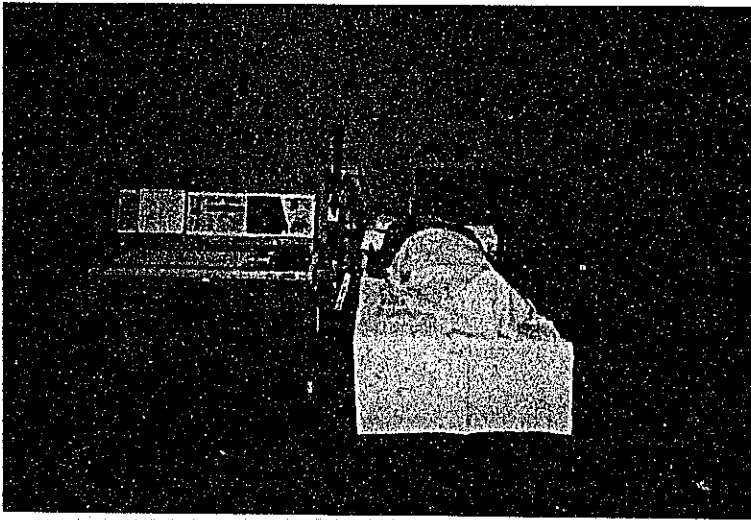
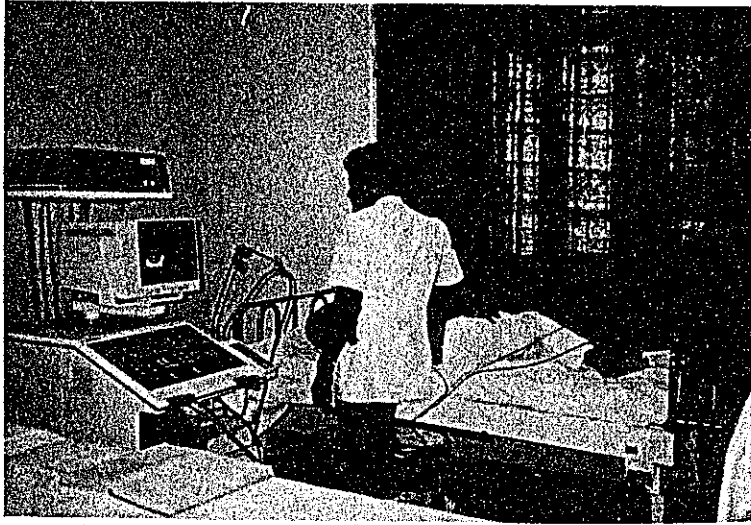
B. D. M. (DOCTOR OF MEDICINE) 2YEARS
CARDIOLOGY, NEUROLOGY, ENDOCRINOLOGY,
CLINICAL IMMUNOLOGY, GASTROENTEROLOGY

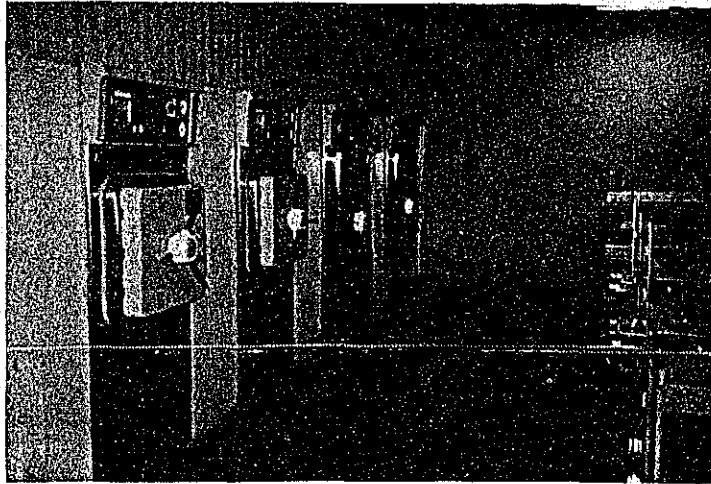
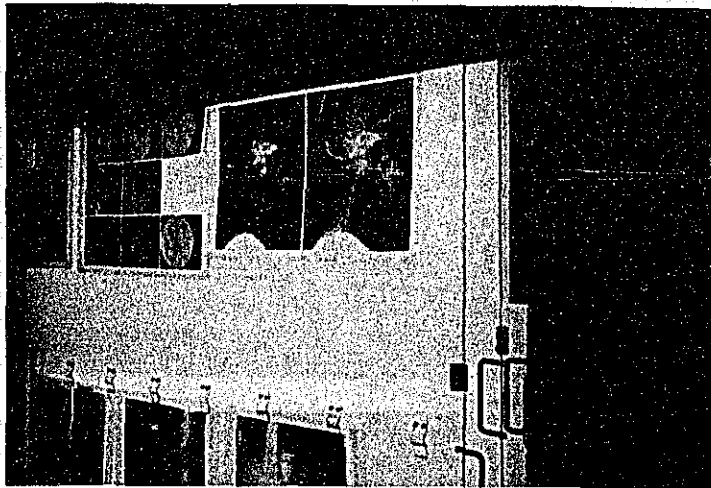
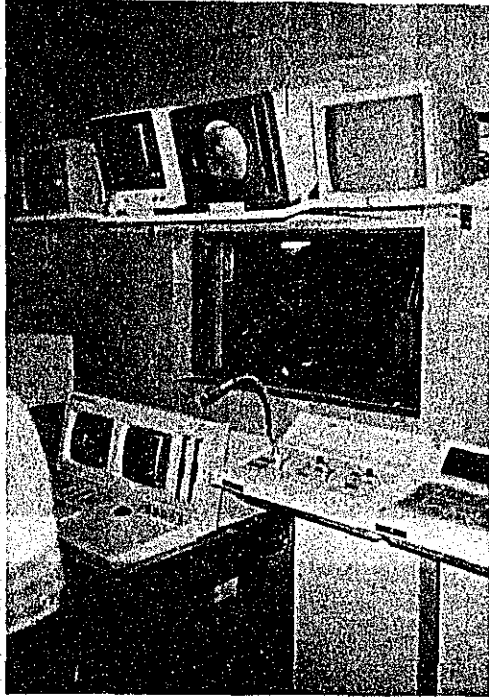


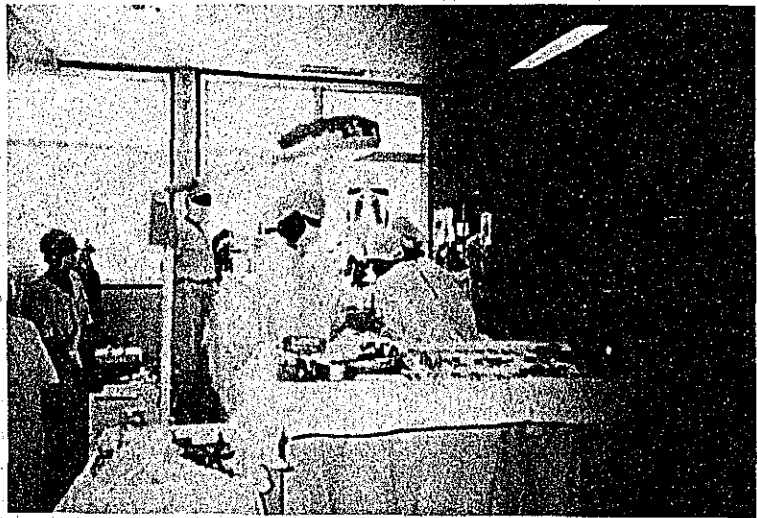
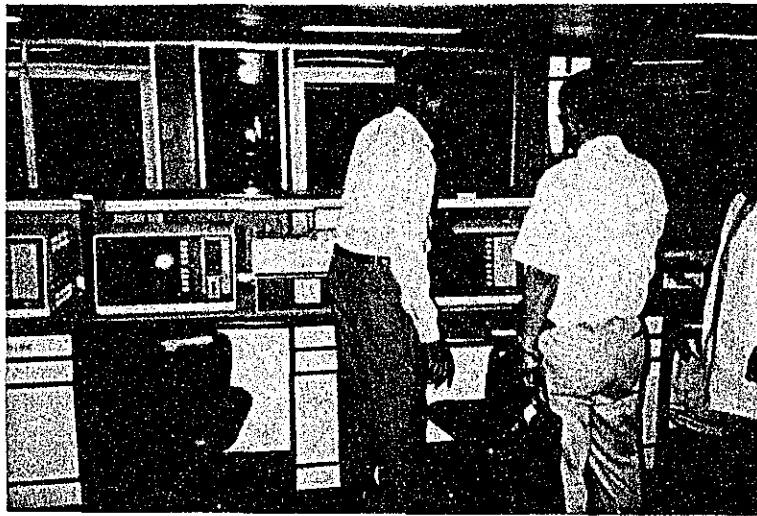


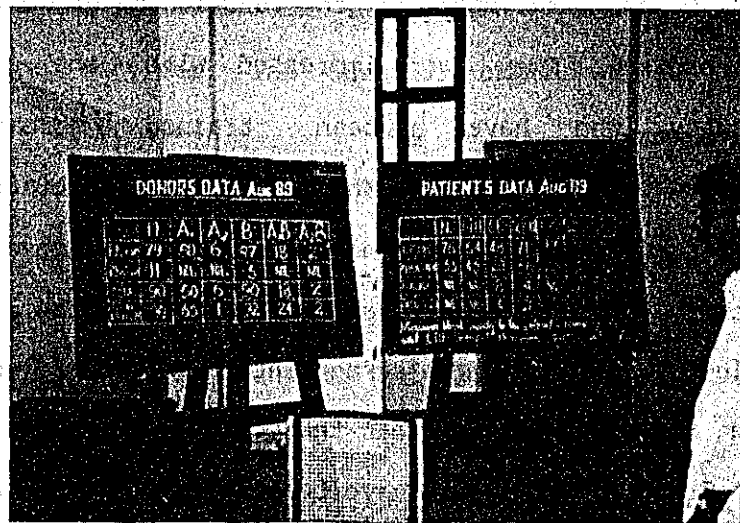
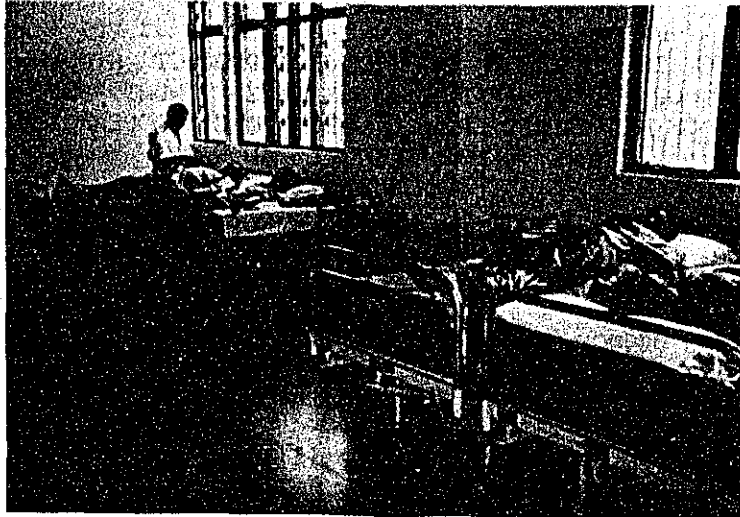












MINUTES OF THE MEETING BETWEEN JICA PROJECT STUDY TEAM AND
GOVERNMENT OF UTTAR PRADESH AND SANJAY GANDHI POST GRADUATE
INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES ON TECHNICAL COOPERATION PROJECT
FOR SGPGI, LUCKNOW,
SEPTEMBER 21ST - 26TH, 1989

The Japanese Project Study Team organised by Japan International Cooperation Agency led by Dr. Minoru Tanabe alongwith Mr. T. Sasaki and Dr. T. Ishigaki visited the SGPGI from September 21st to 26th, 1989 to observe the facilities and progress of the project and to hold preliminary discussions on visit of implementation survey team.

As a result of the visit and discussions following observations/recommendations are recorded for consideration of respective authorities and implementation survey team:

1. The minutes of earlier discussions on Technical Cooperation at the meeting with Mr. Kenzo Oshima and Mr. Nakasone in January 1987; with Mr. Teruo Suetsugu and Mr. Michio Obata & others in January 1988 and with Japanese Preliminary Survey Team in September 1988 were reviewed (Appendix - I).
2. The Study Team observed the functioning of each section of the hospital. They were impressed with the enthusiasm of faculty who have been trained abroad and have settled at the Institute. They were very satisfied with the progress of the project. In particular it was observed that the teaching, training and research programme of the Institute are problem oriented and have strong interdisciplinary approach.
3. The Study Team noted that the equipments received under Japanese Grant Aid programme have been installed and are fully functioning. A request was made that the SGPGI may provide some

copies of X-ray films of computerised radiography and The same has been complied with.

4. The Study Team visited the places of accommodation for the Japanese experts including guest house, Annexe to the Guest House and married doctors houses. The team stayed in the Guest House to experience the exact environmental conditions. They preferred the facility of a TUB bath and a frigidaire.

5. The Study Team was satisfied with the facilities proposed for visiting experts but requested that a faculty house which is at present allotted to a Professor at SGPGI may be made available for the Leader of the Technical Cooperation Team. In addition it also requested for two air conditioned vehicles to be placed at the disposal of visiting experts.

6. The Study Team noted the following priorities identified by the Institute for Technical Cooperation:

(a) Visit of experts in disciplines of Radiology, Pathology, Neurosurgery, Surgical and Medical Gastroenterology, Surgical Endocrinology, Genetics & Immunology, Anaesthesiology and Critical Care, Medical Records and Information system, and Hospital engineering services. The Surgical experts should visit the Institute after 1992.

(b) Despatch of trainees in the above areas.

The visiting team informed that a decision on prioritisation will be taken by the Implementation Team.

(c) Provision of equipment and materials is to be discussed with Implementation Team.

7. As desired by JICA to provide an updated information against item No.4, 5 & 9 of the questionnaire of the Preliminary Survey

Team, the SGPGI has complied with the request (Appendix II).
This includes the latest list of names of Faculty members
alongwith their qualifications and designations.

M-TANABE 25-09-89
Minoru Tanabe
Technical Official (Medical Doctor)
Department of International Cooperation
National Medical Center Hospital

Minoran
25/9/89
K.K. BAKSI
Secretary to the
Government of U.P.
Medical & Health
Department

bb Sethi
B.B. SETHI
DIRECTOR
SANJAY GANDHI POST GRADUATE
INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES
LUCKNOW (INDIA)

10. 質問書の回答

SANJAY GANDHI POST GRADUATE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES,

LUCKNOW

VISIT OF JICA PROJECT STUDY TEAM (SEPTEMBER 21-25, 1985,
UP DATED INFORMATION IN REGARD TO QUESTIONNAIRE PROVIDED TO
JICA PRELIMINARY SURVEY TEAM

ITEM No.4: ENFORCEMENT SYSTEM OF THE PROJECT FOR SGPGI

1) ORGANIZATIONAL STRUCTURE

NO Change

2) NUMBER OF STAFF IN SGPGI

	IN POSITION	PRESENT	PROPOSED
		SANCT-	IONED
(a) Total Staff			
(b) Medical Staff			
b-1 Teaching Staff	63	115	250
b-2 Residents & Ph.D. Students	50	100	750
b-3 Others (Pool Officers, Research Officers etc.)			
(c) Nursing Staff	115	324	1200
(d) Para-medical Staff			
d-1 Medical Laboratory Technologist	66	98	400
d-2 Pharmacist	5		25
d-3 Medical Radiologist	5		75
d-4 Attendants	225		1000
(e) OTHERS			
e-1 Officers	29		100
e-2 Ministerial Staff	150		600

An updated list of faculty staff is enclosed at Annexure I.

ITEM No.5: OPENING SCHEDULE AND FUTURE PLAN OF SGPGI

5.1 SPECIAL RESEARCH DEPARTMENTS

First batch of D.M., M.Ch. and Ph.D. students has been admitted.

A list of students admitted to D.M., M.Ch. & Ph.D. courses is enclosed as Annexure II. In addition to the registered students the Institute has 50 other Senior Residents who are undergoing clinical training in the super-specialities. List of Senior Residents is enclosed as Annexure III. The next batch of students

would be admitted in January 1990. The question of starting D. M. in Cardiology and M. Ch. in Cardiovascular Surgery is being considered.

5.2 CLINICAL DEPARTMENT

5.2.1 OUT PATIENT DEPARTMENT

The Out Patients Department has become very active. More than 18000 new patients have been registered during the current year in various super-specialities. All speciality services are fully functional.

5.2.2 WARD

By now 190 beds are functional. The distribution of beds in various specialities are as under:

Cardiology 17, Cardiovascular Surgery 17, Neurology 11, Neurosurgery 25, Gastroenterology (Med.) 20, Endocrinology 4, Nephrology 19, Urology 25, Genetics & Immunology 11, General Surgery & Gynae 5, Private Ward 18, Dialysis Beds 18.

It is expected that by December 1989, 300 beds should become functional.

5.2.3 OTHER

There are five operation theatres now functioning-one for Neurosurgery, one for Gastroenterology (Surgical), General Surgery & Gynaecology, two for Urology & one for Cardiovascular Surgery. Open Heart Surgery including valve replacement and coronary By pass surgery is being done regularly, Renal Transplant has been started, Advanced Neurosurgery is being actively pursued. Both Gastrointestinal and Endocrine Surgeons have joined the Institute. The investigative departments of Radioactivity and Pathology are fully functional.

ITEM No9 : FACILITIES AND ACCOMMODATION FOR THE JAPANESE EXPERTS

As already communicated.

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place	
Director	Prof. B. B. Setl Agarwal	M.	1956	K. G. M. C., Lko.	
		M.	1960	Univ. of Pennsylvania	
		C.	1963	Univ. of Pennsylvania	
		MRCP	1972	Royal College of Psy.	
		FAPA	1973	American Psy. Associaatic	
		FRCP	1976	Royal College of Psy.	
Genetics	Prof. S. S. Agarwal Professor & Head & Dean	M.D.(Hons.)	1966	KGMC, Lko.	
		FRCP(C)	1976	Royal College of Psy. & Surgeons Caanada.	
		Ph. D.	1977	Punjab University	
		Assistant Professor	Ph. D.	1982	Luchmow University
			Ph. D.	1980	Indian Institute of Science, Bangalore.
			MBBS,	1978	KGMC, Lko.
		Assistant Professor	MD	1983	KGMC, Lko.
Immnnology	Prof.S.S.Agarwal Professor & Head & Dean	M.D.(Hons.)	1966	KGMC, Lko.	
		FRCP(C)	1976	Royal College of Psy. & Surgeons Caanada.	
		M.D.	1976	PGI.Chandigarh	
		Assoc.Prof.of Immunology	Ph.D.	1980	
			Assistant of Immunology		
		Assistant Professor	M.D.	1985	KGMC, Lko.
			MBBS	1979	Cuttack
		Assistant Professor	MD	1982	Cuttack
Gr- I					
	V.K.Singh	MSC			

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place
	Assistant Professor	PHD	1983	
	Gr- II			
Neurosurgery	Prof. D.K. Chhabra	MS(Surg.)	1968	KGMC, Lko.
	Professor & Head	M.Ch.	1972	KGMC, Lko.
	Dr. Y.K. Jain	M.Ch.	1981	NIMHANS, Bangalore
	Associate Professor			
	Dr. Piyush Mittal	MS(Surg.)	1982	KGMC, Lko.
	Assistant Professor	M.Ch.	1986	KGMC, Lko.
	Dr. G. Nagesh Babu	Ph.D.	1983	Hyderabad University
	Assistant			
	Dr. Isha Tyagi	MBBS	1979	Madras Medical College
	Assit. Prof. of			JIPMER, Pondicherry
	Neuro-otology			
		MS	1985	DO
Neurology	Dr. U.K. Mishra	M.D.	1978	Lucknow University
	Associate Professor	MNAMS	1979	
	& Head	D.M	1985	Lucknow University
	Dr. Sunil Pradhan	MBBS	1978	KGMC
	Assistant Professor	MD	1983	KGMC
	Gr- II	DM	1986	KGMC
	Dr. Anoop Kohli	MBBS	1979	
	Assistant Professor	MD	1983	
	Gr- II	DM	1987	
Cardiology	Prof. P.S. Bidwai	MBBS	1954	
	Professor	MD	1957	
	Dr. Nakul Sinha	M.D.	1981	KGMC, Lko.
	Assistant Professor	D.M	1985	KGMC, Lko.
	Dr. S. Radhakrishnan	M.D	1984	Delhi Unuversity
	Assistant Professor	D.M	1986	AIIMS, New Delhi.
	Dr. P.K. Goel	MBBS	1979	MAMC, New Delhi
	Assistant Professor	MD	1984	MAMC, New Delhi
		DM	1986	GB Pant Hosp. New Delhi.

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place
Cardiovascular				
	Prof. Probal Kumar Ghose	MBBS	1968	
Burgery				
	Professor	MS		
		M. Ch		
		FRCS		
		Diploma of the Board CVS		
	Dr. T.S. Mahant	MBBS	1972	Shimla
	Assoc. Professor	MS	1977	PGI, Chandigarh
		ANAMS	1978	
		M. Ch	1978	
		M. Ch	1980	
	Dr. P.K. Mittal	MBBS	1976	GSVM, Kanpur
	Assistant Professor	MS	1981	GSVM, Kanpur
	Gr- I			
		M. Ch	1985	Seth Med. Coll, Bombay
	Dr. A.K. Ganjoo	MBBS	1978	AIIMS
	Assistant Professor	MS	1983	AIIMS
	Gr- II			
		M. Ch	1987	AIIMS
	Dr. A.K. Srivastava	MBBS	1973	
	Assistant Professor	MS	1979	
	Gr- I			
		MNAMS	1982	
		M. Ch	1982	
Gastroenterology				
	Prof. S.R. Naik	M.D. (Med.)	1971	Bombay University
	Professor & Head			
	Dr. Gurdas Chaudhry	M.D.	1982	AIIMS, New Delhi.
	Assistant Professor	D.M	1984	AIIMS, New Delhi.
	Dr. V.A. Saraswat	M.D.	1983	AIIMS, New Delhi.
	Assistant Professor	D.M	1986	AIIMS, New Delhi.

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place
Gastercenterology				
(Surgical)	Dr. V.K. Kapoor	MBBS	1979	AIIMS, New Delhi.
		MS	1982	AIIMS, New Delhi.
		DNB	1986	AIIMS, New Delhi.
	Dr. Rajan Saxena	MBBS	1981	GMC, Patiala
	Assistant Professor	MS	1984	PGI, Chandigarh
Endocrinology				
(Medical)	Dr. M.M. Godbole	Ph. D.		AIIMS, New Delhi.
	Assistant Professor			
	Dr. Ambrish Mittal	M.D.	1984	GSVM, Kanpur
	Assistant Professor	D.M	1987	AIIMS, New Delhi.
	Dr. Eesh Bhatia	MBBS	1980	AIIMS
	Assistant Professor	MD	1984	AIIMS
	Gr-II			
	Dr. Vijaylakshmi Bhatia	MBBS	1981	AIIMS
Assistant Professor	MD	1985	AIIMS	
Gr-II				
Endocrinology				
Surger	Dr. S.K. Misra	MBBS	1978	
	Assistant Professor			
	Gr-II	MS	1983	
		DNB	1988	
Urology	Prof. M. Bhandari	MS	1972	Rajsthan University
	Prof. & Head	M.Ch.	1975	Madras University
		MNAMS	1985	National Board
		(Urology)		
	Dr. R.K. Ahlawat	M.S.	1980	KGMC, Lko.
	Assistant Professor	MNAMS	1982	National Board
		M.Ch.	1986	AIIMS, New Delhi.
Dr. Anant Kumar	MS	1982	PGI, Chandigarh	
Assistant Professor	M.Ch.	1984	PGI, Chandigarh	
Dr. Bakesh Kapoor	MBBS	1980	KGMC, Lko.	

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place
	Assistant Professor	M.S.	1984	KGMC, Lko.
		M.Ch.	1986	PGI, Chandigarh
	Dr. R. Ravi	MBBS	1980	AIIMS, New Delhi.
	Assistant Professor	M.S.	1984	AIIMS, New Delhi.
		M.Ch.	1986	AIIMS, New Delhi.
Nephrology	Dr. Vijay Kher	M.D.	1977	PGI, Chandigarh
	Associate Professor	D.M.	1979	PGI, Chandigarh
	Dr. R.K. Sharns	M.D. (Neph)	1979	Delhi University
	Associate Professor	MNAMS	1981	National Board
	Dr. Amit Gupta	MD	1981	GSVM, Kanpur
	Assistant Professor	Dip. (Neph)	1986	National Board
Pathology	Dr. Rakesh Pandey	MD	1981	KGMC, Lko.
	Assistant Professor			
	Dr. Manjula Murari	Dip. in	1982	KGMC, Lko.
	Assistant Professor	Clinical		
		Pathology		
		MD	1984	KGMC, Lko.
	Dr. Pradeep Tandon	MD	1984	KGMC, Lko.
	Assistant Professor			
	Dr. V. Ramesh	Ph. D.	1980	CDRI
	Assistant Professor			
	Gr - I			
	Dr. T.N.Dhole	MD	1982	Kolhapur University
	Assistant Professor			
	Dr. K.N.Prasad	MBBS	1979	Dhaka University
	Assistant Professor	MD	1984	B.H.U., Varanasi.
	Prof J.G.Jolly	MBBS	1953	Lucknow University
	Professor & Head	MD(Path)	1958	Lucknow University
	Dr. Ratni Gujral	M.D.	1972	AIIMS, New Delhi.
	Associate Professor			
	Dr. Akhilesh	M.D.	1981	Medical College, Agra
	Kulshreshtha			
	Assistant Professor			

DETAILS ABOUT FACILITY

Department	Name & designation	Qualification	Year	Place
	Dr. R.V. Phadke	MBBS	1978	
	Assistant Professor	DMRD	1981	
		MD	1983	
	Dr. Sumit Roy	MBBS	1983	Medical College, Poona
	Assistant Professor	MD	1986	Medical College, Poona
	Dr. S.S. Baijal	MBBS	1981	Delhi
	Assistant Professor	MD	1986	Lucknow
	Gr - II			
Radiotherapy	Dr. S. Hukku	MD	1980	PGI, Chandigarh
	Assistant Professor			
	Dr. N.R. Dutta	MD	1984	Delhi Unuversity
	Assistant Professor	Diplomat	1985	National Board
Nuclar	Prof. B.K. Das	M.D.	1966	West Germany
Medicine	Professor & Head	Specialist in Red. & Redi. Medicine	1974	Univ. of Berlin, W.G. Univ. of Frankfurt, W.G.
		Doctor of Medicine	1978	West Germany
		Specialist in Radio	1982	Univ. of Frankfurt, W.G.
	Dr. A.B. Sewatkar	Ph. D.	1982	Bombay University
	Assistant Professor			
	Dr. A.K. Shukla	Ph. D.	1986	Agra University
	Assistant Professor	D.R.P.	1979	B.A.R.C. Bombay
Anaesthesiology				
	Dr. P.K. Singh	MBBS	1978	Gwalior Unuversity
	Assistant Professor	MD	1982	Gwalior Medical College
	K.C. Pant	MBBS	1979	
	Assistant Professor	MD	1984	
	Gr - II			

SANJAY GANDHI POST GRADUATE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES
LUCKNOW.

SELECTION OF SENIOR RESIDENTS DEC. 1988

SL. NO.	NAME	SPECIALITY	QUALIFICATION/ PLACE OF EDUCATION	LAST APPOINTMENT HELD
---------	------	------------	---	--------------------------

D.M./M.Ch PROGRAMME

- | | | | | |
|----|-------------------|-----------------------------|---|---|
| 1. | Dr. UN. Verma | DM Immunology | M.D. 1987
KCMC, Lucknow | Research Officer at
ESPCI, Lucknow |
| 2. | Dr. PP Vishnu | M.Ch
Neurcsurgery | M.S. 1988
IMS, B.H.U. | Resident at B.H.U. |
| 3. | Dr. Satnam Singh | M.Ch
Neurcsurgery | M.S. 1988
KGMCC, Lucknow | House Job, Junior
Resident & Senior
Resident at GM & AH
Lucknow. |
| 4. | Dr. R.K. Dhiman | D.M.
Castro
(Medical) | M.D. 1987
KCMC, Lucknow | Senior Resident at
SGFGI, Lucknow |
| 5. | Dr. P.N. Salunkhe | D.M.
-do- | M.D. 1986
University of Pune | Lecturer at SG
Hospital Pune |
| 6. | Dr. A.K. Tiwari | M.Ch
Urology | M.S. 1987
AIIMS, New Delhi | Sr. Resident at
SGFGI, Lucknow |
| 7. | Dr. A. Srivastava | M.Ch
-do- | M.S. 1983
Jiwaji University
Gwalior | Sr. Resident at
SGFGI, Lucknow |

SANJAY CANDHI POST GRADUATE INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCES
LUCKNOW.

SELECTION OF SENIOR RESIDENTS DEC. 1988.

Sl.No.	Name	Speciality	Qualification / Place of Education	Last appointment held.
<u>HOSPITAL SERVICES</u>				
1.	Dr. Ravi Elhence	Nephrology	M.D., 1987 JNMS, Aligarh.	Senior Resident at SGPGI, Lucknow.
2.	Dr. Pradeep Arora	-do-	M.D., 1987, KGMC, Lucknow.	Sir Ganga Ram Hospital, Delhi.
3.	Dr. Keshav Sadhvani	-do-	M.D., 1988 SNMC, Agra.	Bhatra Hospital & Medical Research Centre, New Delhi.
4.	Dr. S.P. Saxena	Immunology	M.D., 1988	M.D. thesis in Clinical Immunology.
5.	Dr. K. Sood	Neurology	M.D., 1983 D.M., 1988 KGMC, Lucknow.	Medical Officer at C.H.S.G., Lucknow.
6.	Dr. (Mrs) A. Bhargava	Neurology	M.D., 1987 New Delhi.	Senior Resident in Neurology at Safdarjang Hospital, New Delhi.
7.	Dr. Frateek Bhatnagar	Cardio- Vascular- Surgery.	M.S., 1986 GSVMC, Kanpur.	General Surgeon at SGPGI, Lucknow.
8.	Dr. M. Shivaprasad	-do-	M.S., 1988 PGI, Chandigarh.	Senior Resident at AIIMS, New Delhi.

Sl.No.	Name	Speciality	Qualification/ Place of Education	Last appointment held.
--------	------	------------	--------------------------------------	------------------------

HOSPITAL SERVICES

9.	Dr. S. Agarwal	Cardiology	M.D., 1987 KGMC, Lucknow.	Senior Resident at SGFGI, Lucknow.
10.	Dr. R. Geerge	-do-	M.D., 1987 Calicut M.C. Kerala.	R.M. Hospital, Beypore, Calicut M.C. Calicut. Kerala.
11.	Dr. R.R. Mantri	-do-	M.D., 1987 JLNMC, Ajmer.	JLN Hospital, Ajmer.
12.	Dr. Anwar Khan	-do-	M.D., 1988 JNMC, Aligarh.	Clinical Registrar at JNMC, Aligarh.
13.	Dr. Lalit Bhandari	Radiology	M.D., 1988 Raj. Univer. Jaipur.	AIIMS, New Delhi.
14.	Dr. A.L. Chakravarti	-do-	M.D., 1988 AIIMS, New Delhi.	AIIMS, New Delhi.
15.	Dr. S.R. Chaudhary	Gastro. (Surgical)	M.S., 1988 PGIMER, Chandigarh.	PGI, Chandigarh.
16.	Dr. Md. Ibrarullah	-do-	M.S., 1988 JNMC, Aligarh.	Not mentioned.
17.	Dr. S.K. Gupta	Endocrinology	M.D., 1987 SNMC, Agra.	Senior Resident at SGPGI, Lucknow.

Sl. No.	Name	Speciality	Qualification/ Place of Education	Last appointment held.
---------	------	------------	--------------------------------------	------------------------

HOSPITAL SERVICES

18.	Dr. S. Srivastava	Anaesthesiology	M.D., 1987 JLNMC, Ajmer.	
19.	Dr. A.K. Baronia	-do-	M.D., 1987 Lucknow Univer.	Senior Resident at SGPGI, Lucknow.
20.	Dr. Prabhat Tewari	-do-	M.D., 1987 GSVMNC, Kanpur.	Senior Resident at S.J. Hospital New Delhi.
21.	Dr. A. Gaur	-do-	M.D., 1987	Senior Resident at GVP Hospital, New Delhi.
22.	Dr. Sanjay Gambhir	Nuclear Medicine	D.R.M. INMAS, New Delhi.	Working as Junior Resident LNJP Hospital, New Delhi.
23.	Dr. P.S. Chaudhary	-do-	DRM, 1988 University of Bombay.	Resident in Calcutta Medical Research Institute.
24.	Dr. Ashok Sen	-do-	DRM, 1985 INMAS, Delhi.	Senior Resident at SKIMS, Srinagar.
25.	Dr. B.R. Mittal	-do-	DRM, 1987 University of Bombay	Consultant at Mohan Dai Oswal Cancer Treatment & Research Foundation, Ludhian.
26.	Dr. V.K. Mishra	Urology	M.S., 1987 Gorakhpur Univer.	Registrar at Medical College Vellore.

Sl. No.	Name	Speciality	Qualification/ Place of Education	Last appointment held.
---------	------	------------	--------------------------------------	------------------------

HOSPITAL SERVICES

27.	Dr. D. Dalela	Urology	M.S., 1988 KGMC, Lucknow.	Chief Resident at GMAH, Lucknow.
28.	Dr. Narendra Krishnani	Pathology	MD, 1988 Kanpur University	Demonstrator at G.S.V.M.C. Lucknow.
29.	Dr. C.J. Chandreshkhar	-do-	MD, 1988 PGIMER, Chardigarh	Senior House Man at ST Marti Hospital, Bangalore.
30.	Dr. Surendra Kunar	-do-	ML, 1988 PGIMER, Ch Chandigarh.	Working at PGIMER, Chandigarh
31.	Dr. Ruma Ray	-do-	MD, 1988 PGIMER, Chandigarh.	Working at PGIMER, Chandigarh
32.	Dr. Love Kr, Kacker	Neurosurgery	MS, 1987 KGMC, Lucknow	Sr. Resident at SGPGI, Lucknow
33.	Dr. Narendra Bhargava	Gastro. Med.	MD, 1986 SMSMC, Jaipur	Sr. Resident at GTB Hospital Delhi.
34.	Dr. D.V. Srinivas	-do-	MD, 1987 AMC, Visakhapatanam	Sr. Resident at NIMS,

JICA